

山奥の土地を買って自  
分ひとりで小屋を作る  
話

軽石

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

自分で買った山林の土地に、知識はあつても経験皆無な素人が、自分ひとりの力だけでゼロから小屋を建てる。

現代の様々な電動工具や情報端末、サービスを用いて短期集中的に小屋作りを行い数々の成功と失敗、試行錯誤を繰り返す中で本当の自分について知っていく。

土地は縁もゆかりもない滋賀県の山奥にある300坪の山林。集落からも離れており周囲には誰も住んでいない。

建てる小屋は2×4工法によるロフト付き6畳ほどのコンパクトな小屋。

\* 記録風なフィクションです

\*\*  
なろう・カクヨムでも掲載しています

# 目次

第01・02話 小屋作り開始 | 1

第03話 開拓1日目 初伐採、除草剤

散布 | 6

第04話 開拓2日目 進入路工事の続

き | 11

第05話 開拓2日目 ホームセンター

で資材購入 | 15

第06話 開拓2日目 資材の荷降ろ

し、資材置場（仮）の建設 | 19

第07話 開拓3日目 整地、遣り方

23

第08・09話 開拓5日目 水盛り、貫

板の取り付け | 28

第10話 開拓5日目 水系張り

34

第11話 開拓6日目 基礎の穴掘り

37

第12話 開拓7日目 穴掘りの続き、

転圧作業 | 41

第13話 開拓8日目 基礎の固定

45

第14話 開拓9日目 基礎の仕上げ、

帰宅準備 | 50

第15話 開拓10日目 一旦帰宅・

56



第29話	開拓21日目	休養、道具の	
メンテナンス	—	—	122
第30話	開拓22日目	壁起こし①	
126			
第31話	開拓22日目	壁起こし②	
132			
第32話	開拓22日目	壁起こし③	
136			
第33話	開拓23日目	壁起こし	上
部壁パネル①	—	—	141
第34話	開拓23日目	壁起こし	上
部壁パネル②	—	—	146
第35話	開拓24日目	屋根の施工	
		垂木の設置	—
		—	152
		第36話	開拓25日目
		屋根の施工	
		屋根板①	—
		—	159
		第37話	開拓25日目
		屋根の施工	
		屋根板②	—
		—	164
		第38話	開拓26日目
		屋根の施工	
		ルーフィング	—
		—	169
		第39話	開拓27日目
		壁の透湿防水	
		シート貼り付け、買い出し	—
		—	175
		第40話	開拓28日目
		ドアと窓の施	
		工	—
		—	181

## 第01・02話 小屋作り開始



201x年5月。

私は滋賀県の山奥でひとり、小屋作りをはじめた。



小屋作りのために買ったのは、滋賀県の山奥にある約300坪の山林の土地である。

この土地は自分に何かしらの縁のある土地というわけではなく、まったくの他人から、私自身が働いて得た資金で購入した、真正正銘の縁もゆかりも無い土地である。

現在の所、この土地は人の手が入っておらず自然に任せるままとなっている。

土地売買を仲介してくれた不動産業者に聞くと、以前の持ち主は先祖から相続したこの土地を持って余しており、ここ10年ほどは特に何かに使っていたわけでもないそうだ。

土地の一部はアスファルト舗装されていない林道に面しているが、市街地や高速道路の出口からも遠く、アクセス性は極めて悪い。

電気・ガス・水道といったインフラはもちろん通っており、辛うじてスマホの電波が1本立つ程度でおよそ人が住む場所ではないと言える。

だがそれが良い。この条件こそ私にとつてこの上になく魅力的だった。だから買った。

私はこの土地を開拓し、ツーバイフォー2×4工法によるロフト付き6畳ほどのコンパクトな小屋を一人で建てようとしている。

◇ ◇ ◇

「開拓1日目」

早朝、大阪市内の自宅アパートからレンタカーに工具などを積み込み出発する。

このレンタカーは昨日から1ヶ月契約で借りている軽自動車である。

家から土地までは下道で片道2時間近くかかるので頻繁に行き来するのは避けたい。そのため小屋の建設は現地に滞在して短期集中的に行う。

土地には午前9時ごろ到着した。

目の前に広がる私の土地は木や草が鬱蒼と生えている状態なので全体を見渡すことは出来ない。



現地に着しきつそく小屋本体の工事に着手すると言いたいところだが、そうもいかない。

◇ ◇ ◇

「テントの設営」

まずはテントを設営する。

小屋づくりは泊まり込みの短期集中で行う予定であり、基本テントに寝泊まりする。水はけを考え、若干傾斜地となっている場所にグラウンドシート代わりの厚手のブルーシートを敷き、その上にテントを建てる。

Amazonプライムセールでたったの3000円で買ったこの格安テントには最初からアルミペグが付属していたが、それはあまりにもちやちな作りであり、手近にあった石を使ってペグを打ち込んだ際に簡単にぐにやりと曲がってしまった。

仕方ないので残りのペグは工具として持参しておいたプラスチックハンマーを持ち出して慎重に打ち込んだ。ペグ打ちは完了したが耐久性はあまり期待できない気がする。

テント設営は10分程で完了し、早速テント中に入り登山用のシュラフマットを敷くと広さは十分だった。

格安テントなので防水性が心配だが、万が一雨漏りするような時は自動車に避難すれ

ばいいだろうと考えて割り切る。

初日の作業予定は小屋建築予定地の確認と資材置き場の設置、あと林道からの進入路の確保である。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

「進入路の工事」

小屋の建築予定地は最寄りの林道とダイレクトには繋がっていない。なので林道から建設予定地前までの進入路を作る事で直接、自動車で建築資材を入れできるようにしたいと考えていた。

ただ進入路の工事には1つ問題があった。建設予定地は林道に対して約30cmほど低い段差がある地形となっていたのである。

徒歩ならこの程度の段差はまったく問題無いが自動車では通過できない。なのでこの段差を埋めてスロープ化する必要がある。

そのためこの進入路工事に備えてあらかじめ土嚢袋を買っておいた。土嚢は袋だけならとても安価であり、土はいくらでもあるので現地調達可能だ。土嚢を積んで容積を稼ぎ、上に土や砂利を被せて踏み固める作戦である。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

空の土嚢袋にせっせと土を入れ、袋の口を縛って土嚢を作っていく。

次に作った土嚢を運んで、段差の場所に置くが、これがかなりキツイ。

やってみてわかったが、この48cm×68cmの袋に充填した土嚢はかなり重く、人力で運べるギリギリの重さとなっていた。

計算上では土嚢を20個ほど置けば十分な傾斜と広さを持ったスロープが作れると考えたいたが、これはかなりのハードワークとなることが予想された。

また実際に土嚢を置いてみて分かったが、土嚢は結構横に広がるため、思っていたよりあまり高さが稼げないことが分かった。これではもつと大量の土嚢が必要となってしまう。

なんらかの対策が必要である。

〈続く〉

## 第03話 開拓1日目 初伐採、除草剤散布

◇ ◇ ◇  
〈続き〉

考えた対策は3つ。

1つめはなるべく土嚢を置く場所に近い場所で土嚢に土を入れること。移動を少なくすることで必要なエネルギーを減らす。

2つめは袋に入れる量を少なくすることで、土嚢の運搬作業を楽にすることだ。

運搬作業の軽減について一輪車の購入も考えたが、新品を買うと高い上にここ以外での使用用途もいまのところ考えつかないのでやめた。

3つめは伐採した木材を地中に埋めて体積を稼ぐ作戦だ。木はいくらでもあるし、小屋の整地や進入路延長のためにはいざれ切らなければならぬ。なのでこれらの木を伐採し、段差を埋めるために使うことにした。

地中に埋めた木材はいずれ腐ってしまい進入路に陥没が起こってしまうかもしれないが、その時はその時でまた補修すればよいだろう。とりあえずは建築の資材搬入が完了する数日間持てば十分だ。

◇ ◇ ◇  
「初チェンソー」

進入路工事を一時中断し、さきに伐採作業を行う。

この中古で買ったチェンソーは動作確認のために自宅近くの河原で少し動かしたことはあるものの、騒音があまりにも大きかったため本格的に使ったことはまだ無く今回がはじめてのチェンソー伐採となる。

チェンソーの使い方はYouTubeで何度も動画を見て予習している。大木の伐採や特殊伐採系の動画は結構好きだったりする。

◇ ◇ ◇

イヤーマフ付きのヘルメット、プロテクター、手袋を装着し、作業を始める。

いきなり立ち木に挑むのはリスクに感じたので、まずはクヌギの倒木を切ってみる。

騒音が凄い。

振動も凄い。

チェンソーが幹に触れると激しい抵抗が伝わってきて、暴れるチェンソーの反動を全

身を使って押さえつける感じだ。

直径30cmほどのクヌギの幹はたったの数秒で切断できた。人力のノコギリではこうは行かないだろう。チェーンソーのパワーは圧倒的だ。

何度か倒木で予習したあと、今度は立ち木に挑む。

立ち木の伐採は、伐採した木が倒れる方向をコントロールするため、まず切り倒したい方向に三角形に切れ目を入れ、受け口を作る。次に逆方向から追いつきの切れ目を入れて貫通させ切り倒すのである。

伐採作業に入る前に切断する部分に印をつけ、頭の中で伐採を何度もイメージする。立ち木の伐採は直径の小さい木から順に試し、最終的には5本ほど切り倒した。

たった5本切るだけでもヘトヘトになってしまった。

テクニクが無いせいもあるのかもしれないが、林業のしんどさを思い知った。

小屋作りの邪魔になる場所には直径50センチほどの立派なクヌギが1本残っているため、どうするか考えものだが、とりあえず今日の伐採作業はこれまでにして、今日伐採した木々を玉切りにして進入路に埋める作業を優先することにした。

◇ ◇ ◇

「除草剤の散布」

伐採した木の玉切りと運搬作業をひたすら行っていたが、ふと辺りを気にすると、

まだ16時だというのにもう薄暗くなってきた。

いくらなんでも日没には早すぎる気がするが、日当たりや森林の密度を考えれば仕方がないのかもしれない。

かつて大学のワンダーフォーゲル部に所属していたとき、どんな山でも下山は15時まで完了する様、登山計画を組むべしと先輩に教えられたことを思い出す。山での日暮れは早いのである。

まだやることはいくらでもあるが、本格的に暗くなる前に除草剤を撒くことにした。除草剤は撒いてから効果が出るのに数日掛かるため、早めに行なっておく必要があるのだ。

除草剤にはいろいろなタイプがあつてややこしいが、大きく分けて「茎葉処理剤」と「土壌処理剤」があるみたいだ。

「茎葉処理剤」はすでに生えている草を除草するもので、「土壌処理剤」はこれから生えてくる種状態の草を生えなくする。また残留性の低い農地用と、残留性の高い非農地用がある。

今回は事前に準備しておいた非農地用の茎葉処理剤を散布する。土壌処理剤も後日追加で撒く予定だ。

除草剤を散布したあとは工具などを車からテントまで運び、一日目の作業を終了し

た。

	◇		◇		◇
	—— 経過 ——				
テント設置					完了
除草剤散布					完了
進入路の工事					作業中
伐採					作業中
資材置き場の建設					未着手



## 第04話 開拓2日目 進入路工事の続き

◇ ◇ ◇  
私が小屋作りを短期集中で行うのは時間が限られているからである。

私は某国立大学の後期博士課程に所属する院生である。

院生に小屋作りしている金も時間などあるはずないだろうというツツコミもあるかもしれないが、それは私が小屋作りのために計画を立て、数年前から着々と準備してきたからこそその賜物である。

多くの学生が学部卒業や修士修了時に大金をかけて海外旅行に行ったりするが、私はそれらの時期もひらすらバイトし、土地の購入資金や小屋の資材費を貯め、また研究を計画的に進めることでD2の5月という時期に1ヶ月の自由時間を捻出したのである。

しかし捻出できた時間はたった1ヶ月間だけであり、作業時間にそれほど余裕は無い。  
い。

◇ ◇ ◇  
「2日目」

自分の山林で過ごすはじめての朝。

テント泊での朝は早い。天幕を通して朝日が入って眩しくなるので目醒めざるを得ない。私の土地は太陽に東向きで面しており、日の出も、日没も早いのだ。

テントの外に出ると雨は降っていないものの高密度の湿気を感じたが、場所が山中ということもあり、やはり湿度は高いようだ。

高湿度環境では木材が腐りやすくなるため、今回の小屋作りにおいて防水・防湿対策は必須といえるだろう。

自分の身体は昨日の作業で全身筋肉痛だ。時に腕が酷い。チェンソーでの伐採作業や土嚢の運搬が効いたのではないかと思われる。

泣き言を言って時間を無駄しても仕方がないため、おそろおそろ全身を軽くほぐすようにストレッチしたあと早朝から作業を始める。

今日は昨日に引き続き、進入路の工事を進め、次に資材置き場を建設する。進入路と資材置き場は昼頃までには完成させて、さっさと小屋の資材を買いに行きたいとこだ。

◇ ◇ ◇

「進入路工事の続き」

昨日伐採した木を並べて体積を稼ぎ、隙間を土嚢で埋める。

地味な作業だが仕方がない。進入路の工事さえ完了すれば、自動車で物資を運べる様

になるので開拓が楽になるだろう。

2時間ほど掛けて十分なスロープが出来たので、次にスロープの上に土を被せ、固めていく。

進入路工事は重機を使えば楽に終わることなのかもしれないが、今回の小屋作りでは進入路工事を含め重機を使わない予定だ。正確に言うとは使わないのではなく、使えない”。

その理由は単純に予算が少ないからであって、文明の利器を否定しているわけではない。

また使うとしたら業者に依頼するしかないが、依頼に必要な費用の相場がわからないというのもある。

◇ ◇ ◇

工事を終え、試しに軽自動車を通ってみる。

運転は慎重に行う。

なにしろこの軽自動車はレンタカーであり、もしひっくり返ったりでもしたら大変なので慎重に、ごくごく低速で進入路に入る。

段差を埋めた傾斜はかなりなだらかにしたつもりだが、それでも自動車ではかなりの傾きを感じて、それ以上に問題なのは凹凸である。

土を被せて足で踏み固めたが、ぜんぜん締まっておらず土の中はスツカスカだったみたいだ。

軽自動車で通ること自体は問題無かったが、このあとで資材搬入を行うことには不安が残るので玉切りにした木に左右2本の棒をボルトどめして簡易的なタコを作り土固めを行った。

今回作った進入路は恒久的な道として使用するにはあまりにも脆弱だろうが、資材搬入のために数日間使う分にはなんとか耐えてくれるだろう。

スマホで時間を確認するともう11時になっていた。

資材置き場はまだ着手すら出来ていないが、そろそろ建築資材を買うためホームセンターに行かなければならない。

〈続く〉

## 第05話 開拓2日目 ホームセンターで資材購入

◇ ◇ ◇  
「ホームセンターで資材購入」

作業を切り上げて建築資材をホームセンターに買いに行く。

私の山林はどうしようもないほどの山奥にあるが、開拓に向いている点をひとつ挙げるとするなら、最寄りのホームセンターが約30分ほどの場所に立地しているという点である。

小屋づくりの建築資材はホームセンターで調達しようと考えていたためこれは都合が良い。

小屋づくりに必要な物資のうち、インパクトドライバースコップといった工具類は事前に買い揃えている。

これら工具のほとんどはヤフオクで落札したりハードオフなどの中古用品店を巡ってちまちま揃えた中古品であり、使い方を予習するためにも事前に買って準備しておいたのである。

今回、ホームセンターで買うものは「砂利」「杓石」「モルタル」といった基礎に使う

材料、土台に使う木材などの建材である。

◇ ◇ ◇

土地から30分ほど運転して、ホームセンターに到着する。

駐車場にホームセンターの自社ロゴがデカデカと書かれた軽トラが止まっているのを確認して安心した。この軽トラの存在こそ、今回ホームセンターを利用する理由でもある。

多くのホームセンターで軽トラの無料貸出サービスが利用できることは知識としては知っていたが、実際に利用するのは今回がはじめてだったりする。

陽気なBGMが流れる店先で、事前に計画しておいた買い物リストに沿って必要なものを買っていく。買い物順番も重要だ。重いものを先に買うと見て回るのがしんどくなる。

買う物のうち、杓石や砂利はかなり重いし大量に買うのでレジに持っていくのも一苦勞しそうだと悩んでいたら店員さんが声を掛けてくれたので『これをいくつ買いたいのですか』と伝えると、わざわざレジに持っていかななくても会計してもらえることが分かった。

あと、軽トラを借りたと言うと買ったものを軽トラのところまで運んでくれるとのことだった。なんともありがたい話である。

会計を済ましたあと、サービスカウンターで軽トラの貸出の申込みをする。初めてなのでドキドキしたが、運転免許証を提示するだけで手続きはあっけなく済んだ。

念の為ガソリンについても聞いたが、返すときもガソリンを入れて返す必要はないらしい。なんととも太っ腹なサービスである。

ひとつ難点を挙げるとするとレンタルの時間制限が1時間30分までとなっていることである。土地まで往復時間や荷物の積み下ろしに掛かる時間を考えると結構ギリギリになりそうだ。

あと借りる際店員さんに「ちなみに軽トラを運転したことは？」と聞かれたが、軽トラの運転経験は無い。今回がぶっつけ本番の初めてである。幸いなことにATの車種らしく基本は今日乗ってきた様な軽自動車と同じとのことだった。

◇ ◇ ◇

軽トラのキーを受け取って駐車場に行くと先程の店員さん含め3人ほど店員さんがいて、なんと積み込みも手伝ってくれるとのことだった。

そんなに高い物を買っているわけではないので少し申し訳ない気がしたが、正直有り難い事この上ない。

なんと積み荷が落ちないようにロープで固定までしてくれた。

普段、小売店や飲食店で必要以上のサービスを受けると逆に不快感を感じる私ではあ

るが、今回ばかりは心から感謝した。我ながら都合のいい人間である。

建築資材を目一杯積んだ軽トラは店員さん達に見送られてながらヨロヨロと出発した。



## 第06話 開拓2日目 資材の荷降ろし、資材置場（仮）の建設

◇ ◇ ◇  
「資材の荷降ろし」

砂利、杓石、モルタルといった重量のある資材を満載した軽トラの運転は困難を極めた。

アクセルが非常に重く、ブレーキの効きもそれほど良くない。

途中までのアスファルト舗装された田舎道は信号も車も少なく快適に進めたが、舗装されていない林道に入ってからには危うくてスピードが出せず慎重に進むしかないが、それでも路面の凹凸がダイレクトに運転席伝わってきて身体がガンガン揺さぶられた。

予定より10分遅れで土地の前まで到着すると、いよいよ進入路である。

バッグで慎重に進入路を進むとタイヤがめり込むのが分かる。今回買ったものは合計1tまでは行っていないだろうが、数百kgは余裕で超えているだろう。

なんとか自作のスロープ部分を越えることが出来て安心すると緊張から開放された全身から力が抜けるのを感じたが落ち着いている暇は無い。

とにかく荷降ろしをしなければならぬのだ。

さきほどと違って今回は1人だけであり、軽トラの返却時間制限もあるため急がなければならぬ。

まず荷台のロープをほどき、上の方に積んである木材を下ろす。

次に重量物を下ろす。1袋20kgの砂利や、1個15kgの杓石は信じられないくらい重い。

砂利の袋は最悪破れてもいいので引きずるようにして荷台からそのまま落とし、モルタルや杓石は荷台の端に寄せてからややや丁寧を持ち上げて地面に降ろす。

軽トラの荷台を囲っているパーツは『アオリ』と言って、それぞれ蝶番を外せば開閉できるということをさつき店員さんに教えてもらってよかった。

とにかく無心で作業を行い、荷降ろしを完遂した。

◇ ◇ ◇

「軽トラの返却と追加資材」

無事に荷降ろしを完了し、ギリギリ制限時間内にホームセンターに戻ってくる事が出来た。

軽トラを返却し、ついでに追加の物資を購入する。ホームセンターの行き来には時間が掛かるので今回の帰路でも買えるものは買っておく必要があるのだ。

まずコンクリートブロックを複数個買う。コンクリートブロックは1個98円で売っており、私の感覚ではすごく安く感じる。重量に対するお得感がすごい。

そのほか貯水用の20Lポリタンクなどを買った。

私の土地には沢が流れているものの、小屋の建設予定地からは50mぐらい離れているので水路を引くのはとりあえず後回しと考えている。しばらくは町との行き来にある途中の公園の水道から汲んで使う。

◇ ◇ ◇

「資材置場（仮）の建設」

土地に帰ると、もう16時近くになっていた。身体的にはヘトヘトだが建材を買ってしまった以上、資材置場を作る必要がある。

建築資材のうち特に木材は雨に濡れたり地面のからの湿気にあたるのは良くない。木材が給水してしまうと腐食や変形につながるからだ。

そこでそれらを防ぐために防水性を考慮した資材置場を作る必要があるわけだが、今回は疲れていることもあって極めて簡略的なものにした。

地面にコンクリートブロックを6つ並べ、その上に一番安価だった1080円のベニア板を2枚を敷き、その上に資材である木材やモルタル袋を乗せる。

今回は資材置き場に屋根は作らず、代わりにブルーシートで資材を覆い、ブルーシー

トのハトメにロープ止めを打ち込んで地面に固定することで完成とする。  
 簡素な作りだが最低限の防水機能は果たしてくれるだろうと期待して、今日の作業は  
 これまでとした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台）完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 未着手

## 第07話 開拓3日目 整地、遣り方

◇ ◇ ◇

私が「小屋を作る」という目標を持ったのは6年前。学部2回生の頃である。

当時、ワンダーフォーゲル部に所属していた私は京都や滋賀の低山に登る機会が度々あった。ある時、登山途中に何気なく建っている小屋の存在に気付いた。

その小屋は富士山や北アルプスの山々にある登山客を対象とした山小屋とはそもそも設計思想が異なる”おそらく個人所有と思われる小屋”であった。

その小屋は別荘と呼べるような立派さは無く、かといってプレハブや物置の様な簡素な建物でもなく、あくまで住居として最低限の機能は備えていそうな外観をしていた。

”一体誰が?”

”どういう目的で?”

”どうやってこの小屋を建てたのだろうか?”

気になることこの上なかった。

そこでネットで情報を調べた結果、『山に土地を買って小屋を自作する』という世界があることを知った。

そしてそれは、土地代・建物代を合わせても軽自動車を1台買う程度の予算を用意すれば達成可能であり、一般人の私でも努力すれば現実的に手の届く範囲のことだと知った。

『私には小屋を作れる潜在性がある』と知った。

そういう選択肢があるということがこの上なく嬉しかった。

◇ ◇ ◇

「開拓3日目」

朝起きると昨日に引き続き全身筋肉痛であり、身体の隅々が猛烈に悲鳴を上げているを感じた。しかし小屋作りの作業を進めなければならぬ。

Yahoo天気予報アプリによれば、明日から天気が崩れるとのことなので、なるべく今日のうちにやれることはやっておきたいのである。

今日からはいよいよ小屋の基礎工事に着工する。

◇ ◇ ◇

「整地」

小屋のおおよその建設予定地は既に決めてある。山林の中で8メートル四方程の大きい木が生えておらず整地にそれほど労力を掛けなくても大丈夫そうな場所があったのでそこに小屋を建てることとした。

今回、基礎は穴を掘って砂利を敷いた上に杓石を置くだけの『独立基礎』にする予定なので、整地のために建設エリア全体の土を深く掘り返すことはしないが、それでも落ち葉の腐葉土や草の根が生えている層は剥ぎ取るため、表面の土をツルハシとスコップで10センチぐらい掘り返していった。

なお場所が山であるので建設予定地は若干の傾斜地となっているが、これを水平に整地しようとする時間と時間が掛かり過ぎることが予想されるため、基礎を置く際に高さを調整することで対応することとした。

◇ ◇ ◇  
「遣り方」

次に『遣り方』に着手した。

遣り方は建築エリアの四方に木杭を打ち込み、木杭間を貫板で繋ぎ、貫板に目印を付けた箇所を水系という黄色い糸で繋ぎで交差させることよって建物の基礎を置く位置を決めることである。

まず最初の木杭をハンマーで打ち込んで起点とし、次にメジャーで間隔を測りつつ他の木杭を打ち込んでいく。

木杭の位置は少しずれていても水系の微調整でなんとかなる範囲であれば大丈夫だという。

時間をかけて慎重に4本の木杭を打ち込むと、かなりそれらしくなった。

休憩のついでに、少し離れた位置から様々な角度で建設予定地を改めて観察してみる。

基礎に着工してしまえば作業のやり直しは難しくなるため、本当にこれで良いのかともう一度熟考するのである。

◇ ◇ ◇  
 気がつくともう時刻は17時頃、辺りはもう薄暗くなりかけていた。

今日の作業は水盛りや水系張りまでやりたかったが、思った様に作業が進んでいない。

今後のことを考えると作業時間を確保するために日光を遮る木を切る事や照明設備の導入も検討しなければならないだろう。

とりあえず今日は四隅の木杭の周辺にそれぞれ2本ずつ合計8本の木杭を追加で打ち込み、作業を終了とした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了



資材置場  
(仮)の建設  
基礎工事

完了  
進行中

## 第08・09話 開拓5日目 水盛り、貫板の取り付け

◇ ◇ ◇  
「開拓4日目」

今日は朝から小雨が降っていた。開拓をはじめて以来の雨天である。

一応レインウェアは用意しており、雨が降る中での作業も可能ではあるが、このところ連日の作業で疲労感ピーク達していたので今日は休養日に当てる事にした。

昼頃までテント内でネット検索をしながらダラダラと過ごす。私の土地は山奥にあるが携帯の電波は届いておりネットは使えるのが利点なのである。

これからの各種作業については、書籍、ブログ、YouTubeの動画などから情報を収集しており、細かい注意点なども予習済みではあるが、それらをもう一度見返し作業をイメージトレーニングする。

今回の小屋作りは5月の31日間に短期集中的に行う計画を立てているが、その中で何日かは雨が降る事は想定済みであり、雨の日に行うことも考えてはあった。記録の作成、計画の見直し、道具のメンテナンスや買い物などである。

◇ ◇ ◇

12時頃になるとさすがに退屈になってきたので、テントを出て行動を開始する。

一度大阪の自宅アパートに帰るといふ選択肢もあるが、便利な自宅環境に帰ってしまうとまた土地まで来るのが億劫になりそうなのでやめておく。

車で山をおりて、大きめの町で食料を買ったり、コインランドリーで貯まった衣類を洗濯したりする。

あとワークマンに行つて作業用の手袋を買った。これまで使っていたホームセンターで買った安価なフリーサイズの軍手はブカブカで、小柄な女性である私の手には大きすぎたのである。手袋に関しては大は小を兼ねるとは言えない様だ。

少し奮発して1500円ぐらいの自分の手にフィットした手袋を買った。手袋の重要性は実際に土木作業をしてみなければ分からないことであつた。

コインランドリーの洗濯物を回収したあとはちよつと遠くの温泉に入りに行つたりして休養日を過ごした。

◇ ◇ ◇  
私になぜ小屋を作るのか？

理由は複数あるが、もつとも大きい理由は『私が小屋を作れることを実証したい』からである。

小屋作りそのものが目的なのである。

私は幼い頃からいわゆる”開拓モノ”が大好きだった。

小学生の時に学校の図書室で読んだジュール・ヴェルヌの『神秘の島』は特に印象に残っている。南北戦争時代に気球に乗った5人のアメリカ人達が太平洋上の無人島に漂着し、その無人島を開拓していく小説であるが、科学知識を駆使してあらゆる課題を解決していく描写が凄い。

アザラシの油脂からグリセリンを抽出してニトログリセリンを作り、発破によつて地形すら変えてしまう描写などいま読み返してもシビれる。

自分もいつかその様な開拓に身を投じてみたいと心躍らせたものである。

しかし大人になつたいまなら分かることだが、その様な開拓に参加する機会は残念ながら無い。

もちろん某アイドルグループが無人島を開拓しているテレビ番組の存在は知っているし、毎週欠かさず視聴しているが、現代の一般人にとつて無人島開拓などハードルが高すぎて手が出せないのが現実なのである。

しかし山奥に土地を買つて小屋を作ることにはギリギリできることである。

もちろんそれは容易なことではなく、かなりの知識、計画性、体力、精神力が必要となることは予想されるが、私は自身がそれを成し遂げられる存在であると思うし、そうでありたいと思う。そしてそれを確かめたいとも思う。

小屋を作ることは私が私自身に課したチャレンジなのである。

◇ ◇ ◇  
「開拓5日目」

雨は昨晩早くに止んだらしい。

テントを出て雨の影響を確認するが幸いなことに何処にも悪影響は無さそうだった。表土を掘り返したことで凹地になっていた建築エリアは雨水が貯まる心配があつたので、事前に溝を掘って排水処置を講じておいたこともあつてか水溜りにはなつていなかった。

今日も引き続き基礎工事に取り組む。

◇ ◇ ◇  
「水盛り」

小屋の建築エリアは緩い傾斜地となつているため、単純に地面からの高さだけを測つて四方を繋いだ場合、建物が傾いてしまう。そのため『水盛り』という水平面を測つて高さ合わせする作業が必要となるのである。

今回道具としては水を入れたペットボトルに透明なビニールホースを繋いだ自作の水盛り器を使う。

この自作水盛り器の仕組み単純で、ペットボトルのキャップに穴を空けてビニール

ホースを繋ぎ、ペットボトルに水を入れてひっくり返すことで、ペットボトルの水面とビニールホース内の水面の高さが同じになるという物理学における『サイフォンの原理』を利用したものである。

バケツに入れた水を使う方法やレーザー式の水準器を使う方法も検討したが、価格と簡便性を重視して今回の方法を採用した。

まず敷地中心にコンクリートブロックを置いて、自作水盛り器をひっくり返し、更にその両側をコンクリートブロックで挟み込んで固定する。

ホース内に入ってしまった気泡を追い出してホース内の水面とペットボトル内の水面の高さが同じになっていることを確認してから木杭に印を付ける作業を行う。

実際に印を付けてみると最も高い所と最も低い所では約50センチほどの高低差があることが分かった。

斜面の高低差は基礎の沓石を置く穴の深さで微調整できると考えていたが、思った以上に高低差があり、微調整で対応できる範囲ではないため誤算と言える。計画の修正を検討しなければならぬ。



「貫板の取り付け」

高低差の問題はさておき、次は水盛りした水平線に従って木杭間を「貫板」で繋いで

固定していく。

木ネジで貫板を仮固定したあと水平器を当てて、水平器の中の気泡を凝視して貫板が水平になってことを確認しながら1つ1つ慎重に作業していくのである。

トルクの強いインパクトドライバーを用いた貫板の取り付け作業は楽しかったが、やたらと時間が掛かってしまった。

作業が終わって一息つきたいところではあるがなるべく早く基礎工事を終わらせたいため、手早く昼食の菓子パンを食べて次の『水系張り』の作業に移るのである。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 進行中

木杭・貫板の取り付け 完了

# 第10話 開拓5日目 水系張り

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

「水系張り」

水系張りは基礎の杓石を置く位置を正確に決める作業である。水系を縦・横に張ることによって、その交点が空中に示され、基礎を置く場所の目印となるのだ。

住宅地の建設現場などでも黄色い水系が張られた状態はよく見かける風景であり、小屋をつくるという目的意識を持ってからは近所で建築工事が行われているのを見つけると、通行人を装ってこっそりプロの作業を観察して予習したりしていた。しかし実際に作業を行うのは今回がはじめてである。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

最初の基準とする水系は貫板に目印を付けてそこに浅く釘を打ち込み、その釘に端を輪っかにした水系を引っ掛けることで固定し、もう一方の端は水系が正確に南北に走る様に登山用のコンパスで向きを測りながら微調整し位置を決め、テンションを掛けつつ同じ様に貫板に釘を打って固定した。



次に先ほど張った南北の水系と直角に交差する様に東西に走る水系を張る。

このとき水系同士が精確な直角で交わる様にするためには対角線の長さを計算し計測する必要がある。数学で習う『三平方の定理』である。

しかしこの対角線を測る作業はなかなか進まなかった。なぜならメジャーで空中の長さを測るという作業はやたら難しかったからである。

メジャーは地面の長さを測ったり板の長さを測ることは容易にできるが、空中に浮かせて長さを測ろうとするとメジャーの自重でたわみ、折れてしまうためものすごく難しかったのである。

なんとか出来ないかと試行錯誤した結果、メジャーで直接測るという考えは捨て、対角線の長さにマジックで印を付けた水系を用意し、その目印付き水系を使って対角線を測ることとした。



その後、基準線である東西線、南北線の長さを何度も測り直したり、目印付き水系はテンションの掛け具合で伸びて誤差が出てしまうためやはり精確な測量には向かない事が分かった。

そのため代わりに板材に印を付けて大きな定規の様にして使う方法をためしてみると意外とうまく行ったので途中からはその方法に切り替えることにした。

試行錯誤の結果、2時間くらい掛けてなんとか納得いくものが出来たのでスマートフォンで記念撮影した。完璧ではないものの、ある意味で芸術性を感じる光景であった。こうして5日目の作業を終えた。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 進行中

木杭、貫板の取り付け 完了

水系張り 進行中

## 第11話 開拓6日目 基礎の穴掘り

◇ ◇ ◇  
私の土地は山林に位置し、周囲には当然野生動物も生息している。

土地受領の際に水の利用や土地境界の確認に立ち会って頂いた麓集落の自治会長？  
的なご老人には「この山には鹿やイノシシがいるから農業には向かないだろう」とアド  
バイスされた。

確かにこの山の周辺にある田んぼや畑は基本電気柵でガードされているし、山中に沼  
田場らしき場所があることも確認している。

この土地で農業する予定はいまのところ無いが野生動物との遭遇は場合によっては  
命を落とす危険もあるので常に警戒はしており、高価だったがクマ撃退スプレーを一本  
買って肌身離さず携帯している。

また野生動物が寄ってこない様にする対策として、食料品は林道脇に停めてある軽自  
動車内に保管する様になっている。

動物にとって魅力的な人間の食料があるということが知られることはお互いにとつ  
て不幸な結果を引き起こすかもしれないからだ。

◇ ◇ ◇  
しかし慣れてくると油断してしまうもので、ある時、昼食の調理で余ったトマトをレジ袋に入れたままうっかり外に放置してしまっていたところ見事狙われてしまった。

その犯人はなんとカラスだった。

食べている現場は見れなかったが、飛び去るところを目撃したので間違いない。残されたのは無残にもくちばしで突かれたトマトの残骸だった。

カラスがトマトを食べることを初めて知ったし、わざわざこんな山の中で私の食料を狙ってくるカラスの根性に逆に感心するぐらいだったが、油断してはいけないということとを再認識した出来事だった。

◇ ◇ ◇

「6日目」

早朝から引き続き水系張りの続きをする。

測量の方法は既に習得していたの、あとは時間と集中力の勝負になる。

◇ ◇ ◇

「基礎の穴掘り」

水系張りを終えるといよいよ基礎の作業に入る。

今回基礎は『独立基礎』という方式を採る。

独立基礎は大まかに表現すると、地中に穴を掘って砂利で埋め戻しその上に基礎石である沓石を置いてモルタルで固定するという比較的簡略な方法であり、小屋建築では一般的に使われている方法である。

空中で交差する水系を目印にして縦横深さ30センチほどの穴を12箇所掘る。

以前気づいた土地の傾斜の問題については、基礎の高さを土地の高くなっている箇所と低くなっている箇所の高さに合わせることで対応することができた。

穴掘り作業は基本的にスコップとツルハシで行ったが、細かい木の根や草の根に阻まれ掘り返すのにはとても苦労した。

建設エリアは切り株の抜根作業が必要が無いように木が生えていない空き地を選んだが、山林の地中というのは何処でも植物の根が及んでおり地中に空き地は無いようだ。

穴掘り作業でだけでこの日は1日が終わった。

◇ 経過 ◇ ◇

—— 経過 ——

—— 進入路の工事 完了

—— 資材の購入（基礎・床材）完了

—— 資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事  
穴掘り

進行中  
進行中

## 第12話 開拓7日目 穴掘りの続き、転圧作業

◇ ◇ ◇  
「7日目」

引き続き基礎の穴掘り作業を行う。

30センチの部分にビニールテープを巻いて分かりやすい目印を付けた長い棒を使って、穴の縦横と深さを測りながら穴を整形していく。この一工夫だけで作業はずっと効率化できた気がする。

穴を掘ったことで出た残土は建築エリアの外に幾つかの山を作ってまとめておいたが、かなりの量になってしまいそうだったので、途中から残土は土嚢袋に入れておく方法に切り替えて今後の進入路の整備などに再利用することにした。

◇ ◇ ◇

穴掘りの次は、穴に砂利を入れて推し固め、沓石を置くための土台を作る作業を行う。

一般的に独立基礎の土台には『砂利』ではなく『碎石』を使うのが良いらしい。砂利と碎石は厳密には異なるものであって、それぞれ向き不向きを検討した上で今回は砂利を使うことにした。しかしこの考えは判断を誤った部分かもしれない。

『砂利』は道路の路面に敷いたりコンクリートの材料に用いたりするもので、角がそれほど尖っておらず、車に乗ったりしてもタイヤがパンクしてしまふということは基本無い。ただし砂利にも丸いものから尖っているものまで様々な種類がある。

一方、『碎石』はとても尖っており、転圧（押し固める作業）を行うことでより隙間が締まって安定するため基礎の用途には向くがそれ以外にはあまり用途がない。

今回なぜ砂利を選択したかという点、基礎の工事に実際にどのぐらい必要になるか分からなかった点がまずあり、もし余った場合に他の用途で転圧できることを考慮した。

また、近所のホームセンターに下見に行ったときに砂利は様々な種類が置いてあったが“碎石”と名の付いた商品は売っていなかった。そのため碎石は売っていなくて入手できない可能性も考え砂利を選択したのである。

◇ ◇ ◇

転圧作業は「タコ」を使って人力で行う。タコは市販品を買おうと5000円ぐらいするが、今回は進入路工事の際にも使った自作品を使う。これは玉切りにした30センチほどの丸太の左右に2本の棒を付けてボルト止めしたもので、後に強度を上げるため左右の棒の間に横木を追加した。

使用方法としては単純に垂直に持ち上げて振り下ろすだけである。

基礎には購入してきた砂利の他に、穴掘りで出てきた石や近くに落ちていた石も再利



用した。購入品の使用量を減らし不要物も処理できるので一石二鳥である。

穴に石や砂利を入れて転圧作業を行うが、問題としては砂利を使ったせいなのか分からないが石同士が”締まる”という状態に中々ならなかった事である。

タコを振り下ろすことで確かに砂利は噛み合うが、振り下ろし方や勢いを変えたりすると砂利が動いてしまうのである。しかし正解を知らないのが本間に間違っているのかどうかも分からないのである。

仕方ないのである程度平らに締めることができたなら、その上に沓石をおいてみてグラフかないことを確認した上で、若干不安ではあるもののこのまま作業を進めることとした。

水系の交差を目印にして沓石の大体の位置や高さを調整していく。

沓石は最終的にはモルタルで固定するので、本格的な微調整はそのときにまとめて行う。

◇ ◇ ◇

この日はひたすら基礎の作業を行っていたが気がつくとも16時ぐらいになっており、今日中にすべてを終わらせることは時間的に困難だと思ったので作業を切り上げた。

そして今後使う土台の木材に防腐剤を塗って乾燥させる作業をして翌日以降に備え

ることとした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事

——完了

資材の購入（基礎・床材）

——完了

資材置場（仮）の建設

——完了

基礎工事

——進行中

——土台の転圧

——進行中

木材の防腐処理

——進行中

## 第13話 開拓8日目 基礎の固定

◇ ◇ ◇  
人が利用しなくなった建物はやがて取り壊されるか放置され”廃墟”となる。

現存している廃墟のほとんどは近代以降に作られたコンクリート建築であり、近代以前に作られた木造建築の廃墟はほとんど残っていないと言う。

なぜなら湿度や気温変化の大きい日本の気候ではよほど手間暇費用を掛けてメンテナンスを続けられない限り木造建築は朽ち果ててしまうからであるらしい。

そんな日本でも住居跡の遺構が見つかっているのは、建物を建てる際に掘った穴が地中に残っているからである。

◇ ◇ ◇  
私の建てる小屋の上物も数百年、数千年後には完全に朽ち果てしまっているだろう。しかし基礎はきつと残っていることだろうと思う。

もし未来の考古学者がこの平成末期の滋賀県山中に建てられた謎の小屋跡らしき遺構の基礎を見つけたらどの様に考えるだろうか。

”なぜこの時代に?”

”なぜこの場所に?”

”一体どういう人物が?”

” どういう目的で小屋を建てたのだろうか?”

きつと不思議に思うに違いない。

その場面を想像すると少し愉快な気がする。

私のこの小屋作りへの思いは未来の考古学者に伝わるだろうか。

◇ ◇ ◇

「8日目」

基礎の作業も大詰めである。

基礎には「羽子」と呼ばれるボルト穴の空いた金属部品付きの杓石を用いる。

この杓石を水系の交差を目印にして正確な位置・高さに設置して、最終的にモルタルで固定するが一度モルタルで固定してしまうとやり直しが非常に困難となるためこの作業は慎重に行う必要がある。

基礎の作業に先立ち、車で水を汲みにいった。水のポリタンクは20Lの容量のものを3本買っているが、このポリタンクに水を満タンに入れると重すぎてとてもじゃないが私の力では持ち運べないからである。

◇ ◇ ◇

## 「沓石の固定」

まず四隅に沓石を仮設置する。モルタルで固定する前に木材を使って沓石同士の水を再確認する。

今回、モルタルには水を入れて混ぜるだけの「インスタントモルタル」を使った。モルタルはセメントと砂を別々に買って自分で配合する方が安上がりになるとのことだが、web上には失敗事例が多くあったため、高くても市販品を使うことにした。そうは言っても値段的に大差はなかったと思われる。

全ての沓石の仮設置が終わって、いよいよモルタルでの固定作業である。

まず四隅ではない中間地点にある沓石から始める。

沓石を穴からどける。乾いたままの沓石はモルタルから水を吸収してしまうようなのであらかじめ水をかけて吸水させておく。

次に掘った穴の中心にモルタルを入れて盛る。このモルタルは水で混ぜずに乾いたまま入れる。

そして沓石を置いて、両手で揺さぶり、高さや位置をもう一度測って微調整する。

最終に沓石と穴の隙間をモルタルで固める。この時のモルタルは「ト口船」と呼ばれる工事現場でよく見かける長方形の容器にインスタントモルタルを入れ、計量した水を少量ずつ加えて練ったものである。

ト口船はバケツでも代用できるので最初買うべきかどうか迷ったものだが、今後水場にも再利用できると考え購入した。

◇ ◇ ◇

沓石の固定は体力も気力も必要な作業で、1日では終わらなかつた。

幸いなことに明日の天気も晴れで作業日和である。モルタルは思った以上に量が必要になりそうで不足分をホームセンターに追加購入しに行った。

連日の作業で疲労は溜まっているが、気持ちちは晴れやかだった。すべてが思い通りに行っているというわけではないが、どんなトラブルにも臨機応変に対応できている自分の現状に満足していた。

しかしそんな幸せな気分なところに、後輩から面倒そうな依頼のメールが届くのであった。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・床材） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 進行中

基礎の固定  
後輩の依頼

進行中 2 / 3  
NEXT

## 第14話 開拓9日目 基礎の仕上げ、帰宅準備



「開拓8日目―夜」

後輩から届いたメールは要約すると『明後日、某所のお偉いさんにデータ取りの挨拶に行くので同行してほしい』ということだった。中途半端に面倒な依頼である。行っても私が実際にやることは何もないかもしれない。

私は自分が滋賀県に土地を買ったことも、そこで小屋づくりを行っているということも大学の指導教官以外には明かしておらず、周囲にはあえて説明していない。周囲には『5月は丸々修行に行ってくる』と冗談めかしにごまかして説明している。

何故ならば小屋を作っているなんてことを知られれば『なぜ小屋を?』『どうして?』『遊びに行つていい?』という風ないちいち相手するのが面倒なやりとりが生じるのが容易に想定されるからである。

周囲にはこの期間中はどうしても私でなければ出来ない仕事以外は代わってもらう様に既に交渉しているし、この後輩についても教員から正式にチューターを任せられているわけではないので、どうしても依頼を引き受けなければならぬという義務的なもの



は無い。

とはいってもその後輩からの直接ご指名依頼であるため断り辛い。私は大学の教員・先輩・同回生には極めてビジネスライクに接する様になっているし付き合いも極めて悪いキャラで通しているが、唯一の例外があるとすればそれは後輩に対してである。

私自身が先輩には世話になってきたことに感謝しているので、自分がその立場になった時に後輩にはできる限り親切に接していきたいと考えているのだ。

◇ ◇ ◇

結局、今回は依頼を受けることにして明日の夜から明後日に掛けて一旦大阪に帰ることにした。

調達したいものもあるし、洗濯物も溜まっている。

帰宅を決めてから、すぐに帰宅に向けた準備を始めた。自宅との往復には時間が掛かるためこの機会に用事をまとめて行いたいところである。

開拓を始めて以降に必要な性に気づいた『高光度なヘッドライト』『追加のシユラフマット』などをAmazonで注文し、自宅近くのクロネコヤマトの営業所止めで受け取る取れる様に手配する。

今回の小屋づくりに必要な物のほとんどはAmazonとホームセンターで揃えている。便利な時代になったものである。

◇ ◇ ◇  
「開拓9日目」

基礎工事もいよいよ仕上げである。

残りの沓石を固定していく。固定に使うインスタントモルタルを練るための水は、最初はポリタンクからバケツに移し、バケツからトロ船に少しずつ入れていく方法をとっていた。しかしこの方法では正確な計量や投入の微調整が難しかったため、途中からは2Lペットボトルに水を移して使う方法に切り替えた。

最後は四隅の沓石を1つずつ慎重に計測しながら固定していく。終盤になると一連作業の慣れてきたので、最初と比べれば倍速で倍のクオリティに仕上げるができるようになった。プロと比べればまだまだなのだろうが、スタートが全くの素人からなので伸び代も大きい。

最後の沓石を固定して基礎は完成した。

◇ ◇ ◇  
「帰宅準備」

帰ると決めたので帰宅の準備をしなければならない。

行くことは、『雨対策』と『防犯対策』である。

帰宅中に雨が降ることに備えて建築エリアと購入した資材にブルーシートを被せて

雨対策を行う。この時、ブルーシートの上に土嚢をおいて飛んでいけない様に重しにし、さらにロープとロープ止めを使ってブルーシートをガツチリ地面に固定した。

テントは撤収しようかどうか迷ったが、そのまま置いておくことにした。テントの中には色々置いてあり、テント自体を収納スペースとして使っているからである。

ただし床下からの浸水の可能性を減らし、かつQOLの向上を意図してテントの下にベニヤ板を敷くことにした。

電動工具を含む工具類はレンタカーの載せていくかどうか迷ったが、いわゆる『ホームセン箱』として知られているアイリスオーヤマの鍵付きプラスチックボックスに入れて土地に置いておくことにした。

ホームセン箱は鍵が掛かると言っても箱ごと持って行かれてしまえばどうしようもないので心配だが、帰りのついでに水や追加の資材を搬入しなければならぬことを考えての苦渋の選択だった。

一応、少しでも盗難リスクを下げるため林道から見えないテントや建設エリアから離れたところへ移動させ、同じく持ち運ばないことにした自家発電機と一緒にブルーシートで覆い隠した。

◇ ◇ ◇

作業を終えると16時頃となっていた。

帰宅の準備だけで3時間近く掛かってしまった。小屋が雨風が凌げる収納スペースとしての機能するぐらい完成するまでは帰宅の度にこの作業を行わなければならぬのであるから大変だ。さらに戻ってきてから作業できる状態に戻すまでも時間が掛かるだろう。

そういった点を考えると、やはり週末DIYの様なペースで小屋作りを行うことは厳しい立地条件である。

何としてもまとまった期間の間に集中的に作業を行い完成させないといけない。

そういったことを考えつつ軽自動車で自分の土地を出発した。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・床材） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 進行中

整地 完了

貫板の固定 完了

水糸張り  
基礎の穴掘り  
沓石の固定  
一時帰宅

完了  
完了  
完了  
NEXT

## 第15話 開拓10日目 一旦帰宅

◇ ◇ ◇

帰路の途中の量販店で食料品や消耗品を買って自宅アパートに帰ってきた。約1週間ぶりの帰宅である。

家に着くとまず凄い勢いで洗濯機を回した。洗濯物は大阪を出発する明日の夕方頃までには乾いておいて欲しいので部屋干しにしてエアコンを点ける。

普段から調理に使っているクッカーなどの調理器具も丁寧に洗う。クッカーやコッヘルは毎食後に洗剤も使って洗ってはいたが、やはり蛇口を捻るだけでお湯が無尽蔵に使える環境だと圧倒的に綺麗に洗える。

その後、撮り溜めていたテレビ番組を消化しながら家事を消化しようと思っていたが、途中で一度ベッドで仮眠しようとしたら、そのまま朝までぐっすり熟睡しまった。

学部生の時に登山していた頃から思っていたが、毎回山から帰ってくると都市生活の快適さを再認識する。特にベッドの快適さは恐ろしい。

◇ ◇ ◇

「開拓10日目」

この日は朝から曇り空で午後から雨が降るとのことだった。

朝のうちに土地に持って帰るものをダンボールに入れてすぐに持ち出せるように準備し、スーツを着て大学に行く。まず研究室に顔を出し指導教官に近況報告を行う。

この教授はキャリア的に尊敬しているというのもあるし、なりより性格的に気の合う人だと思っている。教授の『学生の頃から髪は家で新聞紙を敷いて自分で切っている』というエピソードを聞いた時にはすごいシンパシーを覚えたものである。さすがに真似はしないが。

ゼミの何人かと話したあと研究室に長居すると面倒な用事に巻き込まれかねないの  
で、図書館に行くと言って早々に退散した。大学wifiを使ってデータ量が大きいOS  
のアップデートやスマホアプリの更新、プライムビデオで暇つぶしに見る動画などを  
オフライン保存しておく。

その後、後輩と打ち合わせしたり、お偉方への挨拶に同行して大学の用事を終えた。

◇ ◇ ◇

用事を終えたあと近況報告ついでのティータイムに誘われたが断固として断り自宅  
に帰る。

荷物をまとめ、ガスの元栓を締め、冷蔵庫から食料を回収し出発する。帰路の途中で  
クロネコヤマトの営業所に寄って営業所止めにしていた荷物を受け取る。

またガソリンスタンドで今後の使用頻度が高くなるであろう電動工具の充電に備えて自家発電に使うガソリンを携行缶いっぱいに補給した。

帰り道ではいつものホームセンターに寄って今後買う床材や壁材の材料を下見する。今後買うものは全て事前に計画済みではあるが木材は同じ大きさのものでも種類が多数あり、どれを買うべきかを費用と用途・耐久度を相談しつつ再検討しておく。

土地に帰ってくる頃になるとかなり激しく雨が降っていた。

テントに戻るかこのまま車中泊するか迷ったが、このなんの工夫もしていない状態の軽自動車はフラットにできる面積が少なく、車中泊すると体が痛くなることが確実に思えたので、雨が少し弱まったタイミングを見計らって最小限の荷物持ってテントに戻った。

◇ ◇ ◇  
——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・床材）完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 進行中

一時帰宅 完了



土  
台

N  
E  
X  
T

## 第16話 開拓11日目 大雨の日

◇ ◇ ◇

「開拓11日目」

夜間に降った雨は激しかった。

深夜頃には時折強い風も吹き、暴風に煽られてテントポールが折れそうになる時があり、テントポールが折れないようにテントの中から必死に支えた。たった3000円で買った格安テントではあるが、もしこのテントが無くなれば生活の拠点を失ってしまうので一大事だ。

また暴風でテントの外を覆う『フライシート』が飛んでいかないか心配だったが、なんとか耐え切った。テント付属のオマケみたいなアルミペグはあまりにも脆弱そうだったため、後にホームセンターで売っていた1本70円ほどの鉄製のロープ止めに交換し、それを更にコンクリートブロックで押さえつけるといふガチガチな暴風対策をとっていた事が功を奏したのではないかと思われる。

しかし、染み込むような雨漏りだけは防げなかった。

このテントは一般的なテントと同じく、フライシートとインナーテントの間に十分な

空間を設けることで雨漏りしない仕組みになっているが、風に煽られ両者がひつついてしまう事で雨漏りが生じた。そのため定期的にインナーテントをタオルで拭いて雨漏りをしのぐ作業も強いられたのである。

◇ ◇ ◇

「雨の中の見回り」

朝になつても引き続き雨は止まなかったが、外の状態が心配だったためレインウェアを着込んで様子を見に行くことにした。

建築エリアのブルーシートは無事だったが、雨水は地面を伝ってブルーシートの下に基礎に相当流れ込んでいた。建築エリアは斜面になつている場所を選んでおり、なおかつ排水のために溝を掘っていたので被害は抑えられたが、それでもかなりの雨水が流入してしまっている事が予想された。

基礎の固定に使ったモルタルは乾燥させていく過程で強度が高まつていくという性質があるため、なるべく吸水させたくなかったが、もはやどうしようもない。致命的な結果にならないことを天に祈るほかない。

その他、資材や工具箱の様子を確認しに行くと、それらはコンクリートブロッグで底上げしておいたこともあって下からの浸水は無く大丈夫そうだった。また土地の周辺を確認していくと林道が所どころ川の様になつていた。

◇ ◇ ◇  
昼頃になって雨脚は弱まったがシトシトした雨は降り続いたため今日の作業は備品の移動や整理だけに留めることにした。

本日は1日も作業時間を無駄にしたく無かったが、木材を濡らしたくないので仕方がない。

これからの作業は土台に使う木材の加工となるのだが、木材が濡れてしまうと腐食や変形のリスクにつながるためなるべく避けたいが為である。一度雨に濡れるとその後に乾燥させるという時間も必要になってしまう。

◇ ◇ ◇  
時間が余ったので今後の作業について計画をもう一度見直し再検討する。

今後の作業を順にまとめると以下の様になる。

- ① 土台の施工
- ② 床の施工
- ③ 壁の施工
- ④ 屋根の施工

今月中の目標としては最低限の雨風を凌げるレベルまで小屋を完成させることだ。もし時間が余れば内装や外壁の作業まで行いたい、これまでの作業スピード的に考え

て難しいと思われる。

今月中の作業が終わればその後は週末DIYスタイルに移行し、時間が取れた時に  
 いろいろ作業を進めていく予定である。

◇ ◇ ◇

雨は20時頃に止んだが、貴重な1日を何も出来ずに過ぎてしまったことに焦りを感じ  
 じる。

明日は雨の被害状況を確認したあと、なるべく早く土台の作業に着手したい。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・床材） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

土台 NEXT

## 第17話 開拓12日目 土台の木材加工①

◇ ◇ ◇  
「開拓12日目」

昨晩中に雨は降り止んだ。

天気予報によると今日は快晴らしく、ここ数日作業が進んでいないこともあり、陽が昇り辺りが明るくなるに合わせて早速行動を開始した。

◇ ◇ ◇  
もう雨は降っていないなかったが、木や草の葉は未だ十分な雨雫を含んでおり、それに濡れたくなかったのでレインウェアを着込み、まず昨日までの雨による影響を確認しに行った。

まず建築エリアのブルーシートをはがして基礎の状態を確認するが、建築エリアの外周部分は浸水しているものの内部の方はほぼ浸水がなかった様で地表は乾いていた。

浸水部分の杓石を固定しているモルタルは触ると崩れるほど柔らかくはなっていないものの、それほどガツチリ固まっている風でもなかった。強くこすれば削れてしまう程度の硬さだ。

資材置き場では下の方に置いていた木材は若干濡れていた。

資材置き場はコンクリートブロックで底上げした上にベニア板を敷き、その上に資材を置いていたが、ベニア板と木材の間に雨が侵入してしまつた様だつたので今日の作業に向けて木材同士の間隔を離して風通しを良くし乾燥させておく。

工具類と発電機はまったく無事な様で良かった。

進入路の強度が心配だつたので軽自動車は林道脇に置いたまま、人力で車内の荷物を建築エリアまで運んで今日の作業を始めた。

◇ ◇ ◇

7時半頃に林道を登ってくる軽トラがあつた。地元の人が大雨による山の被害状況を見に来たらしく向こうから話しかけられた。

嫌々ながら少し雑談に付き合おうと、私の土地とは離れた場所ではあるが山の斜面で小規模な土砂崩れが起きた場所があつたらしい。道路も暴風雨によつて枝や葉っぱや小石が散乱している状態らしい。

また林道に入る前のアスファルト舗装の道路で大きな落石があつたらしく、小型車はギリギリ通れるものの大型車は通れないだろうとのことだつた。

また、大雨を山の中で過ごしたことを話すとかなり驚かれて、なぜか『若いのに頑張つてるね』と褒められた。

◇ ◇ ◇ 今日からの作業は基礎の上に設置する『土台づくり』の作業となる。

今回、土台は3本×4本 合計12本の角材を直接基礎の杓石の上に置いて、ボルトで固定する。使用する角材は防腐加工された断面が正方形になっている4×4フォーバイフォーの角材である。

土台は角材を基礎の上に直接置かず『床束』という短い柱をたてて基礎と土台の間に挟む方法もあり、その場合の方が土台と地面の間のスペースが広く取れて、床下の乾燥や床下を収納場所として使えるメリットもあるが、今回は作業工程を省くため省略した。

今回の小屋づくりは集中して取り組める期間に限りがあるので、複雑で高いクオリティを目指すことより、なるべくシンプルなモノをあくまでも期間中に完成させることを目標としている。

◇ ◇ ◇ 「作業準備」

まず作業場所を確保する。

例のごとくコンクリートブロックを使って、角材を地面から少し離して水平に作業できるようにする。今回の作業からはいよいよ電動工具である電気マルノコを使ってい



くため自家発電機も近くに準備しておく。

次に、土台に使う角材を実際に基礎の上に置いて確認する。基礎は完全に計測して設置してはいるが万が一ズレが生じていないかを再確認しておくことにしたのだ。また角材のそりを確認し組付けする際の向きを決める為でもある。

今回使う角材は建物の重量を支える重要な部分ということもあってかなりの強度が求められるが、その反面非常に重い。角材をそのまま持ち上げるとはキツイので、移動させる際には引きずる様にして運び、沓石に乗せる際には角材の片端ずつ持ち上げることで沓石の上に置いていく。1人で行うにはかなり大変な作業だ。

予定通りの場所に木材を置くと、4本の角材の上に3本の角材が乗る形となった。最終的には土台は12本の角材全ての高さが揃う様にするため、角材同士が互いに交差している箇所を凹状に削る『欠き込み』と言う加工を行い、組み合わせる。



「墨付け」

次に角材を加工する場所に目印を付ける作業を行う。この作業は『墨<sup>すみ</sup>付け』と呼ばれるが今回は普通に鉛筆を使って行う。またこの墨付けの後に木材を加工することを『刻み』と言う。

複雑な『墨付け』や『刻み』は大工の職人技が光る芸術的な世界であるが、私は素人

なので今回はすべてシンプルな直角と直線のみを用いて作業を完結させる。

今回、墨付けに使用するのは指矩（さしがね）という直角が簡単に測れる定規とメジャーと鉛筆だけである。設計図通りに作れるのは規格化されたホームセンターの角材を使っているからであり、いつでも何処でも同じものが簡単に入手できるという現代の流通体制の恩恵を最大限享受している。

メジャーと指矩で測りつつ、加工する部分に鉛筆で印をつけ、それらを線で結んでいく。

次は『刻み』を行う。

〈続く〉

## 第18話 開拓12日目 土台の木材加工②

◇ ◇ ◇  
引き続き、土台に使用する角材を加工していく。

墨付けした線に従って角材に欠き込みかきこみを作る『刻み』の作業を行っていく。

◇ ◇ ◇  
「刻み」

基礎の上に仮組みした角材をバラして、コンクリートブロックで作った作業場を持っていく。

今回、欠き込みを作る作業は『電気丸ノコ』を使って複数の切れ込みを入れて大まかに削り、その後にはノミと金槌で仕上げを行う。使用する電気丸ノコは中古で買ったものだがブレードは新品に交換してあるので切れ味は良いはずだ。

電気丸ノコは予習や調整のために自宅アパートのベランダでほんの少しだけ使用した事はあったが、本格的に使うのは今回が初めてである。いきなり本番を行うのは危険な気がしたので、まずは遣り方に使った使用済みの木杭を用いてリハーサルを行う。

電気丸ノコを使うと大量に木屑が出るので保護メガネとマスクを着用し作業に備え

る。

まず電気丸ノコの『切り込み深さ調節レバー』を緩め、ベースプレートから出る刃の深さを木材の欠き込みを入れる深さに調節して、再び締める。この操作によって何度でも同じ深さに切れ込みを入れることが出来る様になるので非常に便利である。

次に木材に丸ノコガイド定規をあて、電気丸ノコをしつかりと保持し、目印の線に沿ってゆつくりとブレードを進めていく。

この時に怖いのは電気丸ノコのブレードが木材に挟まり、急に抵抗が高くなることで電気丸ノコ自体が跳ね返るように暴れる『キックバック』と呼ばれる現象が起こることである。

キックバックは死亡事故にも繋がるぐらい非常に危険な現象であり、電気丸ノコを使う上での最大のリスクと言えるが、もしこんな山の中で一人作業中にキックバック事故が起これば一大事になる事は間違いないだろう。

そのため今回は特に注意して、木材を複数箇所固定し切断中に動かなくすることや、丸ノコ専用の30cmガイド定規を使って、正確な直線上にブレードを進められる様にする事などでキックバックが起こるリスクを減らすようにした。

この30cm丸ノコガイド定規は3000円ほどの価格であり、中古の丸ノコ本体と同じぐらいの値段がしたが安全を最優先に考え購入しておいたものである。

何度かリハーサルを行い、作業の感覚を掴んでいく。

◇ ◇ ◇  
次はいよいよ本番を行う。

土台に使う角材の予備は買っておらず失敗すると後がないため慎重に行っていく。角材をコンクリートブロックの上に置いて固定し、丸ノコガイド定規をあてて直線に切れ目を入れていく。まず墨付けしている欠き込み部分の左右に切れ目を入れた後、欠き込み部分の中に2mmほどの間隔を空けていくつも切り込みを追加していく。

切り込み入れが終われば、金槌を使って欠き込み部分を叩く。少し叩くと細かい板状になった木材が根元から折れていく。この作業はとても楽しい。

ある程度慣れてくると、電気丸ノコの作業をまとめて行った後に金槌での作業をまとめて行う様にしたが、この作業は今までの作業の中でもっとも心地よい作業だった。

金槌で折った状態の欠き込み部分の断面はでこぼこしているので、ノミを使って平らに削り整えていく。ノミと金槌を使った作業をしていると自分がとても大工らしいことをしていると思えてくる。

この段階でのノミでの作業は面を平らにする程度の必要最低限に留め、本格的なサイズの微調整は実際に組み合わせた際に行っていく予定だ。

◇ ◇ ◇

この日は暮れてもしばらくヘッドライトを使って作業を続行し、なんとか土台に使う木材の準備作業を終えた。

次は実際に基礎の上に木材を置いて接合させる組付けの作業である。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・床材） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

土台 進行中

木材の加工 完了

組付け NEXT

## 第19話 開拓13日目 土台の組付け、資材買い出し

①

◇ ◇ ◇

「開拓13日目」

今日も引き続き、土台の施工を行う。

これまで作業し準備してきた角材は『大引』おおびきと呼ばれる建物の全体の重量を支える土台の木材である。

在来工法では『大引』の上に『根太』ネダと呼ばれる床の重量を支える木材を置いてその上に床を貼るが、今回は根太を使わず直接大引に床合板を貼る『根太レス工法』ネダと呼ばれる方法をとる。

根太レス工法では、床材に24mm以上の分厚い合板（根太ありの場合12mm）を用いる事で大引が直接床の重量を引き受ける形となるため作業工程を簡略化することが出来るなどのメリットがある。

一方、根太レス工法のデメリットとしては①床↓②壁↓③屋根と言う施工順となるため、床を貼ってから屋根が完成するまでの期間が長くなることがある。このため建設期

間中に雨が降って床材が濡れてしまわない様に特に注意しなければならない。

おそらく今回の小屋づくりでも床が完成してから屋根ができるまでの期間中には何度か雨が降る事も予想されるが、その度に建物全体をビニールシートで覆い、床に雨が侵入しない様に対応しなければならぬだろう。

◇ ◇ ◇

「組付け」

準備した大引を建築エリアまで運び、まず長辺となる4本を基礎の沓石の上に設置する。そしてその上に短辺の3本を置いて1本ずつ調整しながらはめ込んでいく。

昨日作った接合部分の凹みである『欠き込み』は、お互いやや狭めに作ってあるので、最初からストンと嵌まることはない。これを少しずつノミで削ってびったり嵌まる様に微調整していくのだ。

短辺の大引を持ち上げ、転がし、ノミで微調整しては、また転がして、嵌めて具合をみる、という試行錯誤を繰り返す。短辺の大引には1本あたり4箇所欠き込みがあるので、なるべく持ち上げ転がす回数が少なくなる様に1度のリトライで複数箇所を調整していく。

この作業はいかにも大工らしく『建物を作っている感』を存分に感じることができ作業ではあるが、幾度ものリトライが必要な作業でもあり、その度に気力や体力をジリ



ジリと消費していく。

◇ ◇ ◇

「ホームセンターで資材購入」

11時頃になると一旦作業を中断し、昼食を摂ってからいつものホームセンターに建築資材を購入しに行くことにした。

土台の作業はまだまだ時間が掛かりそうだったので今すぐ次の建材が必要なわけではないが、明日明後日は土日であり、ホームセンターに行つた際に軽トラが貸出中で借りられないかもしれないというリスクを減らすため、今日のうちにホームセンターに引き今後必要になる床材や壁材を買うことにした。

◇ ◇ ◇

軽自動車に乗って山を降りる。

道中、昨日地元の人から聞いた道路に落ちているという落石はそれらしいものが見当たらなかつた。既に誰かが撤去してくれたのだろうか。

◇ ◇ ◇

ホームセンターの軽トラレンタルを利用するのは2回目であり、今回は床材と壁材の一部を買う。

ホームセンターに到着するとまず木材コーナーを見に行く。床には24mmの構造

用合板を使うことにしたのでそれを6枚ほど買う。

24mm合板は12mmのもの比べて約3倍の値段がしたが、その価格差が納得できるぐらいの重さと硬さがあって頼もしそうだった。その他、壁に使う枠材や面材などの木材を大量にまとめ買いたした。

次に床下や壁内に入れる断熱材を見に行く。断熱材はいくつか種類があるが、今回は『発泡プラスチック系断熱材』を使うことにした。これは発泡スチロール板の様にとても軽く、カッターで切断出来るので加工も簡単、しかも長持ちというとても優れた商品である。

その他、木材の隙間を埋めるコーキング材や防腐剤、床下に雑草を生やさないための除草剤などを買った。

レジでの支払いの後、前回と同じくサービスカウンターで軽トラ貸出し申し込みを行い、購入品を軽トラの荷台に乗せてもらってホームセンターを後にした。

◇ ◇ ◇

”あー、やってしまった”と気が付いたのは土地に到着する直前あたりだった。

大雨が降った後、進入路の状態確認や補修作業を行うことを忘れていたのだ。

対応を考えなければならぬ。

〈続く〉

## 第20話 開拓13日目 土台の組付け、資材買い出し

②

◇ ◇ ◇

〈続き〉

やってしまった……。

一昨日の大雨が降った後、進入路の無事を確認していなかったのだ。

林道から建設エリア前まで自動車で直接入れる様につなげた進入路は今回の小屋づくり序盤にあくまでも即席に作った道であり、その信頼性は低い。

特に約30センチの段差を木材や土嚢で埋めた箇所内部は大雨に曝された後どの様になっているか分からない。

本来の手順であれば、ホームセンターへ買い出しに行く前に、普段乗っている軽自動車を使って進入路上を無事通過できるか確認しておくべきだったが、そのことをすっかり失念していた……。

しかし時間は巻き戻せないのもうどうしようもない。軽トラの貸出し時間制限が迫る中、このトラブルをどの様に対処することが最適か頭をフル回転させて考える

…。

◇ ◇ ◇

理想的な展開としては進入路を無事通過でき、予定通り建築エリア前で荷下ろしすることである。この場合、貸出し時間制限に間に合うし労力も最小で済むだろう。

最悪の展開としては進入路の強度不足でタイヤが埋まり、スタックしてしまうことである。軽トラの荷台にはまとめ買いした建築資材が大量に積んであり、また車体も含めるとその重量はかなりのあると予想されるのでスタックする可能性は十分にある。仮にそうなってしまった際は自力での脱出は絶望的に困難といえる。

もしそうなった場合でも普段乗っている軽自動車を手元であれば、軽自動車使って牽引し脱出することも可能かもしれないが、残念ながら軽自動車は軽トラと引き換えにホームセンターの駐車場に置いてきているので不可能だ。

そもそもなんらかのトラブルがあった時点で軽トラの貸出し時間制限を超過することは避けられないだろう。

もし貸出し時間超過でホームセンターのトラックリストに乗ってしまえば、今後軽トラレンタルサービスが利用できなくなるかもしれないが、少なくとも屋根材を買うためにあと1回は軽トラレンタルが必要な現状、それは大きすぎるリスクと言える……。

1〜2分ほど、運転席であれこれ考えていたが、とりあえず林道に停めた軽トラから

降りて進入路の状態を確認しに行く。

◇ ◇ ◇

進入路の段差を埋めた部分を観察すると、少なくとも表面はそれほど水分は含んでおらず乾燥していた。しかし、さらに踏みしめて確認してみるとその地面はほんの少し緩く感じた。

「少なくとも」大丈夫とは言い切れない」と言う状態だ……。

……。

思案した結果、林道脇に荷下ろしするという決断を下した。

林道から建築エリアまでの距離は15メートルほどと言ったところだろうか。林道脇に荷下ろしするということは、あとで何十往復もしてこの距離の間を荷運びしなければならなくなることを意味するが仕方がない。

軽トラ荷台のロープをほどき、アオリを外して荷下ろし作業をする。

降ろした資材の整理は、軽量な断熱材が飛んでいかないように木材を上に置くことぐらにとどめ、急いでホームセンターへと引き返した。

◇ ◇ ◇

ホームセンターにつき制限時間内に軽トラを返却したあと、私は絶望的な気分で山林

の土地に戻ってきた。

今回の失敗はこれまでの小屋づくりの中で、初めての明確な失敗だった。

資材は別に今日買いに行く必要はなかったし、事前に進入路を確認して修繕する時間の余裕は十分にあつたはずである。

” 気持ちが悪つていたのだろうか？ ”

失敗に対するマイナス思考は止まらないが、現実問題としてはこれから先のリカバリを考へることの方が重要であると考え、無理やり気持ちを切り替へる。今日中に終わらせないといけない作業はまだたくさんあるのだから……。

◇ ◇ ◇

資材を仮置きした林道脇から建築エリア前に運搬する作業に先立ち、余つていた砂利やタコを使つて進入路の修繕を行う。少しでも肉体的な負担を減らすため、軽自動車を運搬手段として使うことにしたのだ。

進入路の修繕が終わつたあと、軽自動車でその上を通過し確認を行い、無事通過できることを確認したので、壁に使う2×4の角材を載せて運ぶ。

しかし、床や壁に使う合板は大きすぎて軽自動車に載せることはできなかつたため、人力で運ぶこととなつた。

床に使う24mm厚の構造用合板は非常に重く、また取っ手も付いていないため持ち

運ぶことがとても困難であり、地獄の様な作業であったが、休憩を挟みつつ日が暮れる直前頃に運搬作業を終えた。

土台の組付け作業はまだ途中だったが、あまりにも疲れていたので作業中の土台にブルーシートをかけて、今日の作業を終えることとした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 進行中

木材の加工 完了

組付け 進行中

## 第21話 開拓14日目 土台の組付けの仕上げ

◇ ◇ ◇

『大造じいさんとガン』という椋鳩十の童話がある。

猟師である大造じいさんとその獲物であるやたら頭が良くてリーダーシップのある“残雪”というガンが、大自然の中でお互いの生活をかけて知恵比べする様子を淡々と描いている名作である。

大造じいさんにとって残雪はガン猟を妨害する敵であるものの、終盤で第三者であるハヤブサに襲われて怪我をした残雪を大造じいさんは保護し、また自然に返すという場面はとても印象深い。

小学生の頃、教科書に載っていたこの話を最初に読んだ時には大造じいさんと残雪の二者関係にばかり目がいつていたが、大人になつたいまに振り返ってみると、大造じいさんは残雪という対象を通して“自分自身をみていた”のではないかと思う。

大造じいさんは残雪との一筋縄ではいかないやり取りの中で、普段の生活の中では見えない自分の本質的な部分が可視化されたのではないだろうか。



『予想外の場面に遭遇した時に自分自身が』という場面で、”どうか考え、”という行動するのか”。それを知りたい。』

失敗はしたくないし、失敗を恐れる心はある。

だがセルフビルドの小屋づくりをはじめた時から全てが計画通りうまく行くとはサラサラ考えていないし、心のどこかではトラブルが起ることを希求してすらいるのかもしれない。

昨日の失敗は精神面・身体面の両面にダメージを残した。だが小屋づくりの手を止めるわけには行かない。

作業中の起きる様々な事象に対処することで、私は私自身のことをより深く知ることができるだろう。

◆ ◆ ◆  
それがセルフビルド小屋づくりの目的の1つでもあるのだ。

◆ ◆ ◆  
「開拓14日目」

朝から身体が非常に重く感じた。身体は”もうやめる”と言っているのかもしれない。

だがやめない。もつと限界になるまでは続ける。

外は雨は降っていないが曇り空だった。スマホの雨雲レーダーアプリで確認すると雨雲が鳥取県あたりをうつつすらと覆っており、この土地も今日中に雨が降る可能性は十分にあると分かった。

今日の作業はどこから手を付けようか迷ったが、雨に備えて昨日買った建築資材を整理してビニールシートで防水することから着手することにした。

濡れに弱い床や壁の木材を買ってきてしまった以上、これから先は雨との戦いになることが予想される。

次に土台の大引を組付ける作業に入る。土台の作業はなんとか今日中に終わらせたところだ。

◇ ◇ ◇

「組付け」

昨日に引き続き欠き込みを少しずつノミで削り、嵌めて、具合をみて、また微調整するという作業を行う。一度に大きく削ってしまうと楽だが、なるべく隙間なく接合したので根気よく作業を続ける。

ある程度できたところで、いよいよ組付けの作業を行う。

はめ込む側の大引に木を当てて、その上からプラスチックハンマーで叩き、嵌め込んでいく。

14時頃には全ての作業を終えて、基礎の上に土台の木材が乗る形となった。

◇ ◇ ◇  
 「土台の固定」

次に土台の水平をみながら、沓石に埋め込まれている羽子板（穴の空いた金属板）と土台の木材である大引をコーススレッド（ネジ）＋コーチスクリューボルト（先端がネジ状のボルト）でガッチリと固定する作業に取り掛かる。

コーススレッドは直接打ち込まず、事前に電動ドリルで下穴を開けた後、圧倒的なトルクを持つインパクトドライバを使って打ち込んで行く。

コーチスクリューボルトも同じくやや小さめな下穴を開けた後に、インパクトドライバの六角ソケットを使って締め込んでいく。

これらの作業は近くの沓石を順に固定して行くと偏り歪みが出てしまうかもしれないと考え、対角線にある沓石同士を交互に行っていった。

夕方、土台の固定作業を半分ぐらい終えた頃に、ふと風が変わったのを感じた。雨雲レーダーを確認すると雨雲がすぐ近くまで迫ってきていたため今日の作業を切り上げ、仕上げ途中の土台をブルーシートで覆い、撤収した。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

木材の加工 完了

組付け 完了

固定 進行中

床板貼り NEXT

## 第22話 開拓15日目 土台の固定、床の施工①

◇ ◇ ◇  
テント泊をしていると夜がすごく長く感じる。

この滋賀県山中の土地には街の明かりも届かないので陽が落ちればあたりは真っ暗になる。そのため夜間に外での大した活動は出来ず、食事や身支度、記録や計画の見直しが終われたば早々に寝るほかない。

これももしキャンプ場の場合、どんなに深い山奥に立地していても他人が発する明かりや騒音を避けることはできないのだろうが、この土地は私だけのものなのだからその心配はない。人工的な音はたまに峠を走る自動車の音が遠くから反響し聞こえて来るぐらいだ。

ただ、虫の声はずっと鳴り止まないのでもリッチな睡眠環境とはまったく言えないのが難点だが。

◇ ◇ ◇  
「開拓15日目」

今日も天気は曇りのようだが昼頃からは晴れる見込みで、雨は降らなさそうだ。

昨日は夕方に雨が降ったため作業を早めに切り上げたということもあり、休養も十分取れており疲労感はいぶ安らいだ気がする。一つのピークを越えたという感じがする。

今日は土台の仕上げと床の施工を行う。

◇ ◇ ◇

「土台の仕上げ」

昨日中途半端で終わってしまった土台の固定を仕上げる。

まず少し水滴が残っている建築エリアのブルーシートを取り外し、何度も振って水滴を落としたあと折りたたまずそのまま広げて乾燥させておく。同様に資材置き場のブルーシートも外し、資材の内部にこもっているかもしれない湿気を逃しておく。

それが終わるとさっそく土台固定作業の続きに取り掛かる。

作業の要領はすでに掴んでいるので後は気力と体力の勝負となるが、インパクトドライバという便利な道具を使って、羽子板と大引を次々と固定していく。

それにしてもインパクトドライバはすごい工具だ。電動ドリルと比較と比べて圧倒的なトルクの強さで、作業がどんどん捗る。電動工具の中でもっとも好きな工具と言える。

9時頃には作業が全て終わり、土台の固定が完了した。

◇ ◇ ◇  
試しに完成した土台を揺さぶってみるがビクともしない。完全にガツチリと固定されている。

土台を完成させるまでに建設期間の半分を使ってしまったが、いよいよこの上に小屋を立てていくのかと思うと感慨深く感じる。

完成した土台を改めて観察してみると、床束（床下の高さを稼ぐ短い柱）を省略したせいもあってか、地面から土台までのスペースはかなり狭く感じる。

この上に床を施工することで床下に湿気が溜まり、土台の木材が腐食しやすくなりそうで少し心配に感じた。

しかし不安には感じるものの、これについては設計な根本的な部分なので今更どうしようもない。

一応腐食の予防策として、今回は土台の木材である大引には防腐剤が注入された木材を使用しているが今回はさらに組付けの接合部分にシーリング材を注入し隙間を埋めていく。

大きいボンドのような筒状のシーリング材をコーキングガンにセットし、大まかに接合部の上に乗せてヘラで隙間を埋めていく。本当はマスキングテープを使用するべきなのかもしれないが、目につく部分でもないので今回は省略した。

シーリング作業は昼頃には完了し、一息ついた。  
次はいよいよ床の施工に移る。

〈続く〉



## 第23話 開拓15日目 土台の固定、床の施工②

◇ ◇ ◇  
〈続き〉

土台が完成した後、一旦昼食を摂ることにした。

食料と調理器具一式を置いてある軽自動車のトランクを開け、そのままそこで袋麺の塩ラーメンを調理する。

いつもは車内の座席上で食べることが多いが今日は建設現場で食べることにした。

建築資材の上に腰掛けて建築エリアを眺める。

半月かけてようやくの土台の完成まで辿り着くことができた。まだ土台だけの状態だがある意味、芸術品の様に感じる。

自分で作った土台を眺めつつ食べる塩ラーメンは格別なものだった。

◇ ◇ ◇

「床下断熱材の施工」

床に合板を貼る前に断熱材を入れる必要があるが、発砲プラスチック素材である断熱材はそのままビス打ちして固定することはできないので、「断熱材受け金具」を大引

に取り付けて固定する。

この受け金具を使って断熱材を固定すると、断熱材が床板にちょうど密着するようになるため非常に便利なアイテムと言える。

ただ今回は断熱材が床下の地面に直接暴露する設計としているため、念のため断熱材の下に横木を何本か追加して、断熱材の重量を受け止めるようにした。

受け金具を大引に取り付けた後、断熱材を設置する作業に取り掛かるが、断熱材は少し大きめなものを買ってきており最初から床下のスペースに「スポット」つと入ってくれるわけではない。なのでぴったりはまるサイズになるように切断する必要がある。

この発砲プラスチック系断熱材を切るための道具としては、ニクロム線を利用したものや専用のカッターなど発売されているみたいだが、今回は普通にノコギリを使用することにした。

切断する目印の線を引いた後、土台の上に床板を仮置きして作業台代わり使い、その端に断熱材を置いて切断作業を行う。断熱材は軽い力でサクサク切れていくためとても心地よく作業が進む。

どんどん作業を続け、出来上がったものからどんどん床下スペースに嵌め込んで行く。

全て終わると既に床施工がほぼ完成していると言っても過言ではない見た目となっ

た。

◇ ◇ ◇  
 「床合板貼り」

最後に行うのは床合板の貼り付けである。

苦勞して運んだ24mm厚の構造用合板を貼り付ける。今回は小屋は土台が合板の規格サイズになるように設計したので合板を切断する必要はなく、そのまま断熱材の上に蓋をするように乗せて、専用のビスで留めれば床の完成である。

しかし、ここでも思うようにいかない場合に遭遇してしまった。

◇ ◇ ◇  
 土台と仮置きした合板が2cmほどズレいたのである。

どこの段階でズレが生じたのか分からないが、目の前の現実してズレが生じているので対処しなければならない。しかもかなりのズレである。

方法としては土台の方をなんとかするか、床合板の方をなんとかかの2パターンが考えられるがどちらを選ぶべきか悩む。

土台はガチガチに固定されているため、これを外して修正するのは容易ではない。

なので合板の方で対処したいと思って考え、試しに6枚ある合板の配置を並べ変えてみた。すると不思議なことにズレが1cmほどになった。

なぜだろうかと思つたが、おそらく合板には若干の個体差があるのではないか考える  
と納得いった。規格サイズの商品といつても原料は木材であり、輸送や保存の過程で多  
少の歪みが生じるというのはいかにもありそうな説だろう。角材については個体差が  
あることは知っていたが、それは合板にも言えることだったのだ。

結局、この床合板のズレについては何度か組み合わせを試行錯誤した中で一番マシと  
言える配置を見つけ出し、それでも残る多少のズレは妥協することにした。

◇ ◇ ◇

場所が決まったので、試しに1枚目の床合板を土台に固定していく。

床合板のうち、壁側になる外周部の固定にはネダレス工法用のとても長いビス用いる  
が、これも土台の時と同じくあらかじめ下穴を空けてから順に打ち込んでいく。

これは数がとにかく多いので、丁寧によればやるほど時間が掛かる作業となる。

1枚目の貼り付けが終わったあたりで夕方頃となつていたため、今日中に床板張りの  
作業を終わらせることは難しいと判断して作業を切り上げた。

作業途中ではあるものの、急いで失敗したくはないので、日が暮れる前に作業現場に  
ブルーシートを施してこの日の作業を終えた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事	完了
資材の購入（基礎・土台）	完了
資材置場（仮）の建設	完了
基礎工事	完了
資材の購入（床材・壁材）	完了
土台	完了
木材の加工	完了
組付け	完了
固定	完了
床の施工	進行中
断熱材	完了
床板貼り	進行中

## 第24話 開拓16日目 床の仕上げ、資材買い出し

◇ ◇ ◇  
「開拓16日目」

小屋作りも日程的にはいよいよ折り返しである。

これまで雨が降ったり、大阪に一時帰宅したりなどで作業が出来なかった日も何日かあったが、それらを考慮しても建設の日程としては予想の範囲内である。

今日は床板を貼り付けて床の施工を完成させたい。

また作業時間には余裕があるので、これから先の準備のために追加の壁材と屋根材をホームセンターに買いにく。

◇ ◇ ◇

朝早くから行動を開始し、昨日に引き続き床板の貼り付け作業を行う。

まず、全部の床板の四隅を留めて、土台の上に位置を固定することにした。

位置さえ固定できればあとは追加のビスを打ち込むだけの単純な作業となるので楽になるはずだ。

慎重に5枚の合板を留めていくと、一枚ずつ床が仕上がっていくのを感じる。

作業が終わると、床がほぼ完成したので少し離れて小屋の状態を観察した。

遠くから見るとまる大きなウッドデッキの様に見えた。

その先の作業は作業速度を上げるために作業内容を分割してまとめて行う。まずは角材を定規代わりに使ってビス打ちする箇所に鉛筆で印をつけて行き、続いて下穴を開けていく。

下穴開けには先端も根元も太さが変わらない普通のドリルビットを電動ドリルに取り付けて行ったが、穴空けの後に毎回ドリルを逆回転させる操作が必要であり、このまま無駄な時間が掛かることが予想できたので、ホームセンターで錘状のドリルビットを買うことにした。

錘状ドリルビットの存在はYouTubeの動画を見ていて知っていたが、あまり必要とは考えていなかったのので事前に用意はしていなかったのだ。

目印つけ作業が全部終わったあと、下穴開けの作業を一時中断し、ホームセンターに行くことにした。

◇ ◇ ◇

今回はホームセンターで買い物した後に食料品の買い物なども行うので、それらの準備をしてから軽自動車で土地を出発した。

ホームセンターに着くと電動工具売り場でドリルビットを選んだあと、例のごとく木

材コーナーに行つて木材を大量にまとめ買ひする。

今日買うのは残りの壁材と屋根材、さらに屋根を工事するための脚立であるが、軽トラレンタルサービスを利用するのは今回を最後とする予定なので、作業をミスした時などの保険として木材は予備を含めて少し多めに買つておくことにした。

◇ ◇ ◇

ホームセンターで買ひ物が終わリレンタルの軽トラで土地に帰る。軽トラの運転も3回目にもなると慣れたものである。

土地に持ち帰つて荷下ろししてまたホームセンターに戻り、町のコインランドリーで洗濯機を回しつつ食料品を買ひにく。

帰りに遠回して温泉に寄り、久しぶりの入浴でリラックスしたあと土地に戻つた。

◇ ◇ ◇

「床の仕上げ」

土地に戻つてきてから作業を再開する。

先ほど買つた錘状のドリルビットは非常に便利だった。次々と作業することができるので今回の様な多数の下穴を開ける時には必須のアイテムであると感じた。

下穴を開けたあとに、ビス留めをしていく。

専用のビスを打ち込む度に床板と土台がギョツと密着するのが分かる。



途中、インパクトドライバーの充電が切れてトルクが弱くなったので予備バッテリーに交換し、作業を続けた。

◇ ◇ ◇

夕方頃に床施工の作業が全て完了した。

貼り終わった床の上に大の字で仰向けになると、広葉樹の隙間からオレンジ色に変化していく空が見えた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

床の施工 完了

断熱材 完了

床板貼り 完了

資材の購入（屋根材）  
壁の施工

完了  
NEXT

## 第25話 開拓17日目 壁パネルの作成①

◇ ◇ ◇

今回の小屋づくりに当たって一番時間が掛かったのは、実は“土地探し”だった。

山林の土地というのは普通の不動産屋には売っていないが、ネットで少し検索すれば専門業者のサイトが簡単に見つかる。

しかし、そのような専門業者が扱っている土地は価格が高く、私が欲していた数十万円以内で買える極小さい面積の土地と言うのはなかなか見つからなかった。

またある業者のサイトでは、かつて別荘地だった場所または別荘地に開発する予定だった土地を業者が小さく分割して個人向けに売っていると見られる例も見つけたが、それも私が欲していたものではなかった。

なぜなら、せっかく山に小屋を作ったのにご近所さんがいるというのは望んでいないからである。週末に自分の小屋に行ったらご近所さんに見つかってBBQに誘われてしまう様なシチュエーションは何としても避けたかったのだ。

私にとって、山の小屋は秘密基地の様な場所であって、他人の目が気になる場所ほどんな山奥にあったとしても、条件を満たしていない場所と言えた。



小屋を作る費用の目処がついた頃から約2年かけて地道に山の土地探しを続けたが、条件を満たす土地はなかなか見つからなかった。

もしや私の小屋づくり計画は最初のステップである土地を買うという部分で頓挫してしまっているのではないか、と思いかけたそんなある時、ネットで見かけたあるブログの記事の内に興味深い情報を見つけた。

そのブログ作者は『山に土地を買って移住すること』を目的に土地を探しており、その経過をブログ記事にしていたが、その内に後に私が買うこととなった土地が紹介されていた。

ブログ作者によれば、この土地は「とても惜しい土地」とされていた。

この土地は地主も安価で売却意向ではあるが、平地が少なく農業には向かず、かといって林業を行うには狭すぎるという『恒久的な生活の場所』とするには厳しい条件の場所だったのである。

これらの条件は山への移住を目的にしているブログ作者にとっては残念な要素だったのかもしれないが、山に小屋を作ること自体を目的としている私にとってはこの上なく都合の良いものだった。

こうして偶然、縁もゆかりもない山林の土地の情報を得た私は、その後様々なやりと

りや手続きを経て、この土地を買うことができたのである。

◇ ◇ ◇

「開拓17日目」

土台と床が完成したので、次はその上に壁パネルを作っていく。

ツーバイフォー

2×4 工法は別名で『枠組壁工法』とも呼ばれ、複数の壁パネルを組み合わせるこ

で建物の重量を支えることが特徴である。

柱や梁を用いる在来工法と異なり、壁自体がそれらの機能を果たすのである。

今日は壁パネル作成の初日なので、まずは壁パネルに使用する木材を準備していく。

◇ ◇ ◇

「壁パネルの準備」

壁パネルは<sup>ツーバイフォー</sup>2×4の角材で枠を作り、その上に12mm構造用合板を貼って作成す

る。

枠に使用する枠材は長さを調整するために切断する必要があるため、まずはその作業を行う。

まず枠材に使う木材をメジャーで測り、切断する箇所に墨付けをする作業を行うが、

この時、床を作業場所として使った。

広い水平面の作業場所があるというのはとても便利なことで、あらゆる作業が進めや

すくなると感じた。

◇ ◇ ◇

14時頃に壁パネルに使う桧材の切断作業を終えたので、次に桧材の防虫・防腐処理を行うことにした。

今回は桧材用には防虫防腐処理されていない普通の2×4材を買ってきているため、屋内用の木材保護塗料を塗布する。

塗布に先立って、木材の表面をサンドペーパーでヤスリがけして均一にしておく。この作業にどれだけ効果があるのかわからないがいちおうやっておいた。ただし今回は木材の数が多いのでごく手早く済ませることにした。

次に、一番安かったペラペラのブルーシートの上に桧材を並べ、順番に木材保護塗料を塗って、乾くまで待つこともなくどんどん裏返して全面を塗っていく。少し雑になってきている気がするが、妥協するところは妥協していく。

この日は陽が暮れてもヘッドライトを使ってしばらく作業を続けた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事

完了

資材の購入（基礎・土台）完了

資材置場（仮）の建設	完了
基礎工事	完了
資材の購入（床材・壁材）	完了
土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	進行中
枠材の準備	進行中
壁枠の作成	NEXT

## 第26話 開拓18日目 壁パネルの作成②

◇ ◇ ◇  
ここからの小屋づくりにおいて、最も警戒しなければならぬのは『雨』だと考えている。

なぜなら今回、床や壁に用いている木材に防水性はなく、雨に曝されると乾燥した木材は水分を吸収し、腐食や変形に繋がってしまうからだ。

また木材が一度濡れてしまうとそれを乾燥させるために更に手間と時間も掛けなければならなくなるため、大幅な作業時間ロスとなってしまう。

土地が所在するここ滋賀県の5月の天気出現率では、31日間中の5日間が雨天傾向となっており、これから先の小屋建設期間中に雨が降る可能性は決して低くは無く、『雨は降るもの』と考え、対策をとるべきだろう。

◇ ◇ ◇  
「開拓18日目」

早朝、テントから出て空を見上げると、天気は曇り空の様だった。

スマホの天気予報では、夕方頃から小雨が降るという予報となっていたため、今日は



雨に警戒しつつ壁パネル作成の続きを行っていく。

◇ ◇ ◇

「壁枠の作成」

今回つくる小屋は建物の4面のうち、長辺となる正面と後面は壁パネルを2つに分割して作るため6枚の壁パネルが必要となり、さらに各パネルは上部・下部の2枚ずつで構成する設計としているため全12枚の壁パネルが必要となる。このため壁パネルの作成にはかなりの時間が掛かると予想される。

作成した壁パネルは逐次床の上に立てて行きながら作業して行くこともできるが、一度壁パネルを立ててしまうと雨が降った際にブルーシートで覆う作業が難しくなるため、今回はあらかじめ全ての壁パネルの作成をまとめて行い、立てる時は一気に立てることにした。

壁を立ててから屋根を完成させるまでの期間を少しでも短くしたいのである。

壁パネルは2×4材で壁枠を作り、その上に12m構造用合板を貼るが、今回は壁枠をまとめて作った後に、まとめて合板を貼ることにした。基本的に同じ作業は同時にまとめて行いたい。

枠材は昨日までの作業でサイズ通りに切断し、防腐剤の塗布も終わっているので今日はそれらを組み合わせていく。

◇ ◇ ◇  
 枅材同士の接合方法について、本来の2×4工法ではCN釘を用いる様だが、今回はインパクトドライバで打ち込むことができるコーススレッドを用いることにした。

建設現場で本職の人がエアース式釘打ち機を使って『パスパスパス』と圧倒的な速さで釘打ちしていく爽快な光景には憧れるものの、釘打ち機はとても高価であり手が出せなかった。

かと言って、金槌で一つ一つトンカントンカンやっている時間は無いので、インパクトドライバに頼ることにした。

私には圧倒的なパワーを誇るインパクトドライバ相があるのだ。

度々世話になっているインパクトドライバには感謝しかない。この小屋が完成した暁には、小屋に神棚を作ってこのインパクトドライバを祭りたいとすら思っている。

◇ ◇ ◇  
 壁パネルはまず簡単な形をしている、窓の開口部が無い短辺の下部壁パネルから作成していくことにした。

作業場所である床の上で枅材を仮組みし、上辺・下辺の木材をメジャーで測って、他の枅材と接合する部分に鉛筆で墨線をつけていく。

次にビス留めする箇所を下穴を開けてから、その箇所にコーススレッドを打ち込んでいく。

壁枠はなるべく精確な直角に接合できるようにビス打ちして行きたいが、ホームセンターで買ってきた2×4材<sup>ツーバイ</sup>は多少ねじれている。

そのため端材を使って製作した『枠材をちょうどはさみ込む治具』を使ってねじれを修正しつつ、コーススレッドで止めて行く。

最初の壁枠なのでだいぶ時間が掛かってしまったが、無事完成した。

◇ ◇ ◇  
次は窓のある方の短辺を作成して行くが、こちらは少々複雑な作業となる。

窓を作るためには開口部が必要となるが、壁パネルに開口部を作ることで生じる強度低下を防ぐため、開口部の上側に『まぐさ』と呼ばれる横材を追加し、さらに開口部の左右に『まぐさ』の重量を支える『まぐさ受け』を作る必要がある。また下側にも『窓台』と呼ばれる横材を追加する。

使用する木材は全て用意済みの2×4材<sup>ツーバイ</sup>であり、それらを設計図通りの位置に置いて接合していくだけの作業のだが、木材を直角に固定し隙間ができない様にしていく作業はなかなか手間がかかった。

◇ ◇ ◇

正午頃、

そろそろ2枚目の壁枠が出来そうだと思っていたところにパラパラと小粒の雨が降り出した。

スマホの雨雲レーダーで見ると、うつすらと薄い雨雲がこちらへ向かっていることがわかったので、急遽ブルーシートで作業中の木材を覆った。

◇ ◇ ◇  
昼食を摂りつつ、雨をやり過ごす。

今回の雨は降水量も少なく、すぐ止む様なので特に問題にはならないだろうが、今後の雨が心配になる。

雨雲が通り過ぎた後、必要最低限の資材だけを資材置き場から出し、すぐに雨仕舞い出来る様にしつつ作業を再開した。

◇ ◇ ◇  
夕方、5枚目の壁枠に着手し始めた頃、雨が降り出した。

この雨もパラパラ降る程度の小雨ですぐ止む予報だったが、木材を濡らしたくないので無理はせず、今日の作業を終えることにした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事	完了
資材の購入（基礎・土台）	完了
資材置場（仮）の建設	完了
基礎工事	完了
資材の購入（床材・壁材）	完了
土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	進行中
枠材の準備	完了
壁枠の作成	進行中

## 第27話 開拓19日目 壁パネルの作成③

◇ ◇ ◇

「開拓19日目」

今日も昨日に引き続き、壁パネルの壁枠を組んでいく。

今回、壁枠に使用する2×4材は数が多く、どれも見た目も似ているため、長さを測って切断した時にそれぞれ設計図と対応するように鉛筆で印を付けて管理するようにしている。

なので資材置き場から目当ての木材をピックアップしてきて、組み立ていくと言う壁枠づくりの作業はさながら大きいプラモデルを作っている様である。

しかし、プラモデルと異なるのは『木材には個体差がある』ということだろう。

今回ホームセンターで買ってきた2×4材は全て規格に基づいて同じサイズになる様に加工されたものであるが、それでも多少の捻れや反りが個体差として残るため設計図通りに組んだとしてもびったりはまらず、ほんの少しの歪みや隙間ができてしまう。

壁枠を組むという作業は、それらを地道に修正しつつ、固定して行く作業だったのだ。

◇ ◇ ◇

壁パネルの壁枠はどんどん出来上がっていったが、そのことで困ったのは壁枠を一時的に保管する場所だった。

とりあえず建築エリアのすぐ近くの地面に直接ブルーシートを敷いて、その上にそのまま積み重ねていったが、組み上がって一体化した壁枠はまだ合板を張っていない段階でもかなりの重量があり、これを移動させて床の上に立ち上げていく作業にはかなりの労力が必要となりそうだった。

壁枠作成の作業はどんどん加速し、15時ごろには全ての壁枠が組み終わった。

次は、壁枠に貼る構造用合板を準備していく。

◇ ◇ ◇

2×4工法では壁枠に構造用合板を貼り付けることで、『面』として壁パネルが建物の重量を支える。そのため構造用合板はとても重要なパーツと言えるのだ。

この構造用合板には12mm厚のものを使用する。買ってきた910mm×1820mmサイズの合板は、そのままでは1枚あたり10kgほどの重量があり、取っ手が付いていないこともあって持ち運びにくく、運搬作業は大変だった。

また今回は、構造用合板をあらかじめ設計図通りに電気丸ノコで切断してあらかじめ準備しておく。

◇ ◇ ◇

「構造用合板の準備」

まず、構造用合板を設計サイズ通りに切断するために鉛筆で墨線をつけていく。

この作業は本職の大工であれば『墨つぼ』と呼ばれる本物の墨と墨糸を用いた専用の道具を用いることで、素早く精確に墨線をつけていくのが普通であるようだ。

しかし今回は素人作業なのでチャレンジングなことはせず、これまで何度も使つて十分に慣れてきているメジャーと指矩《さしがね》を使用し、地道に線を引いていく。

◇ ◇ ◇

構造用合板の墨線が付け終わったのは夕方少し前頃だった。

引き続き合板を電気丸ノコで切断する作業をするかどうか迷うところであったが、電気丸ノコの作業はおそらく日が暮れるまでに全部を済ませることはできないと考え、今日の残り時間は別のことをすることにした。

行うのは『壁を起こす際に支えとするストッパーの取り付け』である。

◇ ◇ ◇

「壁起こしストッパーの取り付け」

一人での壁起こしは困難が予想されるため、壁パネルを立てる位置にあらかじめ支えとなる端材を取り付けておく。これは勢いを付けて壁パネルを起こした時に、壁パネルが目標の位置である床の端にちょうど収まるようにするものである。



もし作業者が2人以上いる場合は、壁パネルを立ててた後に一人が壁パネルを支えつつ、もう一人が壁パネルを少しずつズラして微調整して行けばよいのでわざわざこの工夫を行う必要はないかもしれないが、この山中には自分たった一人しかいないので仕方がない。

一人での壁起こしはセルフビルド小屋づくりにおける難所と言われる部分であるが、事前の準備によって少しでも成功する確率をあげておきたいところだ。

◇ ◇ ◇  
 ストッパーをあらかじめ取り付けた後、作成途中の壁パネル木材と建築エリアにブルーシートで覆いをかけ、この日の作業を終えた。

◇ ◇ ◇  
 明日は壁パネルを最後まで仕上げたいところである。

◇ ◇ ◇  
 ——経過——

——経過——  
 進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	進行中
枠材の準備	完了
壁枠の作成	完了
壁パネル支えの取り付け	完了
構造用合板の貼り付け	NEXT

## 第28話 開拓20日目 壁パネル —合板の貼り付け

◇ ◇ ◇

「開拓20日目」

朝から天気は少し雲が漂う程度の曇り空だった。

今日は壁枠に構造用合板を貼り付け、壁パネルを仕上げるところまで済ませたい。

天気予報を確認すると明日から天気が崩れる予報となっていたため、完成した壁パネルを床の上に立ていく作業は明後日以降に行う予定だ。

◇ ◇ ◇

「構造用合板の切断」

昨日付けた墨線に沿って、電気丸ノコを用いて構造用合板を切断していく。

電気丸ノコはこれまでの作業で何度も使用しているが、今回の様に長い距離を切断するのは初めてとなるため、作業を前にして少し緊張する。

今までの電気丸ノコ作業では安定した姿勢で手元の可動範囲だけで操作ができていたが、今回の作業では電気丸ノコと一緒に自分の身体も前に進め、切り進んでいく必要がある。つまり、不安定な姿勢での作業を強いられるのだ。

◇ ◇ ◇  
 まず最初に端材となる予定の部分を合板から切り取って、自作の丸ノコガイド定規を作ることにした。

これは2本の長細い合板を貼り合わせることで、丸ノコのベースプレートにストッパーにするとというものである。使用方法は簡単で、定規に沿わせて丸ノコを押し進めるだけで簡単に安定した直線での切断ができるというものであり、今回の様に大きな合板を切る様な作業でほぼ必須な道具と言える。

まず自作ガイド定規の材料を切り出すために、2×4材を大きな洗濯バサミの様な『スプリングクランプ』で固定してガイド定規代わりに用い、合板の長辺である約180cmの長さを切断して行く。

この作業は切断中に合板がズレてしまわない様に、合板をコンクリートブロックでガチガチに挟み込んで行った。

切り取った2枚の合板を重ねて木工ボンドで接着し、乾くまでしばらく待つて完成となるのだが、今回は乾くまでの時間がもどかしかったので、直接複数箇所を短い木ネジで留めてしまい時間短縮を図った。

< i 3 6 2 9 6 9 — 2 8 1 2 1 >

◇ ◇ ◇

自作ガイド定規を使用する際、端はスプリングクランプで固定しつつ、定規がズレない様に若干上から力をかけつつ丸ノコを前に進ませていく。

墨線に沿って慎重に切断作業を進め、着々と合板を切り出して行った。

◇ ◇ ◇

「合板の貼り付け」

全ての合板のサイズ調整が終わった後、いよいよ壁枠に合板を貼り付けて、壁パネルを完成させる。

事前にネットなどで調べたところ、合板は『壁起こしする前に貼っている人』と、『壁起こし後に貼っている人』の両方がいたが、今回は『事前に貼る方法』を採用することにした。

事前に貼ることのメリットとしては、壁起こし後の時間を短縮できることが大きい。また、事前に合板を貼ることで壁パネルが歪む可能性が減るため、立ててから歪みを調整する必要がないというのも理由の1つだ。

一方、デメリットとしては壁の重量が重くなるため、壁起こしの労力が大きくなるということがあげられる。合板を貼るとその分、壁パネルの重量が重くなるのは必然である。

もちろん、このデメリットを軽減解消するための対策は考えており、2×4工法で作

る小屋は最低4つの壁パネルがあれば構成できるが、私の小屋ではそれを12個の壁パネルに分割することで一個あたりの重量を減らしている。

◇ ◇ ◇

壁枠を建設エリアの床の上に持ってきて、合板を貼って行く。

合板の四隅を位置合わせしてビス留めし固定した後、どんどん追加のビスを打ち込み壁パネルを完成させていく。

枠だけの状態では強く揺さぶれば少し歪む程度の強度であるが、合板を貼るとガツチリと締まり、非常に頑丈な状態となった。

2×4工法は壁パネルが『面』で建物を支えるので柱が必要ないというが、その説明にも納得できるほどの強度が期待できそうだと実感することができた。

◇ ◇ ◇

日が暮れる前に全ての壁パネルを完成させることができたので、完成した壁パネルを建築エリアの床上に積んでブルーシートを重ねがけし、雨に備えて嚴重に防水対策を行った。

明日は雨が降りそうなので壁起こしの作業はできないだろうが、作業日程にまだ余裕があるので休養をとりつつ今後の計画の見直しと道具のメンテナンスでもしようと考えてこの日の作業を終わらせた。

◇  
◇  
◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

床の施工 完了

資材の購入（屋根材） 完了

壁の施工 完了

枠材の準備 完了

壁枠の作成 完了

壁パネル支えの取り付け 完了

構造用合板の貼り付け 完了

壁起こし  
NEXT

## 第29話 開拓21日目 休養、道具のメンテナンス

◇ ◇ ◇

小屋を完成させたのちに是非やってみたいことが一つある。

ドラム缶風呂に入ることだ。

私がこの誰もいない滋賀県山中に土地を買って、小屋を作る理由の5%ぐらいはドラム缶風呂に入るためと言っていいだろう。

ドラム缶風呂が設置してある幾つかのキャンプ場には行ったことはあるが、実際に入ったことはまだ一度もない。なぜなら、キャンプ場にある様なドラム缶風呂はプライバシーと開放感の両立が難しい存在であるからだ。開放的すぎる場所は他人の目が気になるし、塀に囲まれた場所は開放感がなくて味気ない。

しかしこの山中には自分以外誰も居ないので大丈夫だ。

小屋が出来た暁にはドラム缶風呂を設置し、存分に本当の露天風呂を楽しみたいと考えている。

◇ ◇ ◇

「開拓21日目」



朝から空は曇っており、空気が湿気を含み重く感じた。

天気予報では今日は一日中降水確率が高く、散発的に雨が降る可能性が高いという予報となっていた。

まだ雨が降っていないため朝のうちから、壁パネルを床の上に立てていく『壁起こし』作業に着手することも出来なくは無いが、作業途中に雨に降られてその都度雨仕舞いする羽目になることは面倒で避けたかったので、壁起こし作業はまだしないことにした。代わりにこれまで使ってきた工具たちのメンテナンスを行うことにする。

◇ ◇ ◇

今回の小屋づくりに向けて、ほとんどを中古で購入し事前に揃えておいた工具たちは多少の汚れや傷は付いてしまったものの、これまで1つも壊れることなく役目を果たしてくれている。

まず一番世話になっているインパクトドライバを中性洗剤を薄めて絞ったタオルで拭き、汚れを落として行く。内部も開けて分解清掃したいところではあるが、清掃後にうまく戻せなくかもしれないので今日は行わないことにする。今回の小家作りが全て終われば、いずれ行つてあげたいところだ。

細かい木屑や埃が大量に付着している電気丸ノコも同じ様に外側を拭いて清掃していく。この丸ノコのブレードは消耗品なので、使用し続けていると切れ味が落ちいくそ

うなのだが、今のところ切れ味の劣化は感じていない。換えのブレードも念の為準備しているが、今回の小家づくりでは必要なさそうである。

1ヶ月間の長期レンタルしている軽自動車も食器洗い用の中性洗剤を使って洗車する。この軽自動車はシルバー色の車体だったので遠目から見るとあまり汚れは目立つてはいなかったが、近くで見ると車体は白茶色の砂埃でボディ全体が覆われており、指で撫ぜると絵が描けるぐらいに汚れていたのであった。

◇ ◇ ◇  
道具の清掃作業を終えた後もまだ雨は降っておらず、続けて屋外で作業することも出来なくはなかった。

壁の施工の次に行く、屋根の施工に向けて木材を加工しておくかどうか迷うところではあったが、今日のところはやめておくことにした。

残りの工事期間にはまだ余裕はあるため急ぐ必要はなく、しっかりと休養を取るということも大事だからだ。中途半端に作業を始めるとその後片付けも必要となり、結局疲れる羽目になってしまうだろう。

今日はいくまでも『明日の壁起こしに備えてコンディションを整える日にする』と理由付けして自分を納得させ、明日の壁起こしに備えることとした。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

床の施工 完了

資材の購入（屋根材） 完了

壁の施工 完了

壁パネルの作成 完了

壁起こし  
NEXT

## 第30話 開拓22日目 壁起こし①

◇ ◇ ◇  
 「開拓22日目」

朝、天気はまだ少し曇っており、ときおり風も吹いていたが正午からは晴れる予報となっていた。

Yahoo天気予報アプリで確認すると、これから先の一週間、雨マークは1つも付いておらず、絶好の作業日和といえる。

今日はいよいよ『壁起こし』を行う。

◇ ◇ ◇

今日の作業は万が一の事態に備え、黄色い作業用ヘルメットを着用して行う。

また大作業用の『腰袋《こしぶくろ》』を装着し、その中に大量のコーススレッド（ネジ）を入れておき、腰袋外のフックにはインパクトドライバを引っ掛けておきながら作業する。こうする事によって壁パネルを固定するためのビス留め作業を出来る限り速やかに行うことができるのである。

まず、建設エリアのブルーシートをはずし、これまでに作成しておいた壁パネルと土

台・床の状態を確認する。

昨日の夜に少しだけ降った雨は直接木材を濡らすことはなかったが、それでも木材は湿気を含んでいた。地面から上がってきた湿気を木材が吸収してしまったのかもしれない。地面からの湿気は今後対策を考えなければならぬところだが、とりあえずは小屋を一通り完成させることを優先する。

これから床の上に壁パネルを立てて、床・土台と壁パネルを接合する『壁起こし』の作業を行うのだ。

◇ ◇ ◇

2×4工法における壁起こし作業を一人で行うのは難易度が高いとされる。なぜなら壁パネルは重量が重く、それを不安定な状態で床に立てて位置の微調整も行い、ビス留めしていかなければならないからだ。

特に最初の1枚目は難易度が高い。壁パネルは他の壁パネルと接合することで支点が増えて安定性も増していくが、最初の壁パネルはわずかな底辺の面積で床に接しているだけなので、非常に不安定であり、その状態で固定作業をしなくてはならないのだ。

もちろん、この作業をできる限り素早くかつ安全に行うために前準備として、壁パネルの各部分にはあらかじめ下穴を空けておいてコーススレッドを打ち込みやすくしたり、壁パネルが床の外にはみ出さない様に土台にストッパーの木材を取り付けること

で、壁パネルの位置合わせの作業を楽にする工夫を行っている。

また壁パネルの左右にコーススレッド<sup>1</sup>本だけで緩く留めた『仮筋交い』<sup>かりすじかい</sup>の木材を準備しており、壁起し後に仮筋交いと土台と接合することで壁が倒れる危険性を軽減するよう対策を行なっている。

< i 3 6 2 9 6 8 — 2 8 1 2 1 >

今回、最初に建てる壁パネルは高さが約180cmほどあり、私の身長よりも全然高い。重量も60〜70kgほどはあるため、立ち上げの難易度は決して低くはないだろう。

床の上を清掃し、他の壁パネルを退けてからいよいよ最初の壁起しを行っていく。

◇ ◇ ◇

今回の壁起しはジャッキや滑車といった道具は使わず、角材とコンクリートブロックを用いて行う。

まず壁パネルの片端を少しだけもちあげて、隙間に角材を挟み込む。次にその角材を使って隙間を大きくしたところにブロックを挟み込んで隙間を大きくする。同じこと逆端でも行う。さらに壁パネルを少しづつ持ち上げ、追加のブロックを増やしていく。ブロックを3つほど積んだところで、そろそろブロックの安定性も心配になってきたので、あとは人力で一気に立ち上げることにした。

◇ ◇ ◇  
壁パネルの下に両手を入れ、呼吸を整えてから全身に力を入れ、一気に持ち上げるツ、ツが、とても重い！

しかし途中でやめるわけにはいかない!! 力を抜くと自分が潰されてしまう!! 全身の力を振り絞り、押す、そう、”持ち上げる” ではなく、”押す!”

◇ ◇ ◇  
限界まで力を振り絞り、なんとか立ち上げることが……出来た。

立ち上げた壁パネルから恐る恐る手を離すと、壁パネルは倒れることもなく、底辺の木材だけで床に接し、自立していた。

その時、不意に後ろから強い風が吹き付けた。

◇ ◇ ◇  
最悪のタイミングで吹き付けた強風、咄嗟に壁パネルの枠材を両手で掴んで倒れないように必死に耐えた。

“なんでこのタイミングで!?” 予期せぬ出来事に戸惑い、

“早くこの風が収まってくれ” と心は絶叫している。

◇ ◇ ◇  
どれだけ時間が経っただろうか、ほんの一瞬だったのか数十秒だったのか分からな

い。

……風は収まった。

わずかな面積で床に乗っているだけの壁パネルは合板を貼ってしまっているのに風  
に押されることに凄く弱い。自立できているといつても、合板を貼った側に重心が偏っ  
ており非常に不安定な状態だと言える。

一刻も早く、コーススレッドを打ち込んで固定を行わなければならない。

◇ ◇ ◇

まず、ブラブラしている仮筋交いを土台に固定する。左右の仮筋交いさえ固定してし  
まえば大分安定するはずだ。

床から地面に降り、急いで一方の仮筋交いの位置を調整し、土台に留める。

焦りでコーススレッドを取り出す自分の手が震えているのを感じた。

この作業中にもう一度強い風が吹けば、壁が倒れてしまうかもしれないのだ。

下穴は念のため三箇所ほど開けておいたが、急いでいるので一本だけ留めた。そして  
逆側の仮筋交いを留めるため、壁パネルの外側を通り抜けようとした。

その時、



もう一度、強い風が吹き付け……、

……壁パネルは、倒れた。

……

………。

私はその下敷きになってしまった。

〈続く〉

## 第31話 開拓22日目 壁起こし②

.....。

.....。

.....痛い。

強風に煽られ、倒れてくる壁パネルを受け止めようと咄嗟に両手を前に出したが、重量のある壁パネルを支えられるはずもなく、私は壁パネルの下敷きとなってしまった。

全身が心臓になったかのような激しい拍動、アドレナリンが全身を駆け巡っているのを感じた。

流れるような予想外の連続、そして判断ミスの連続だった。

あれほど用意周到に行っていた数々の準備は自然の力の前に役に立たず、私は負けてしまったのだ.....。

”負けてしまった.....のか?”



アーネスト・ヘミングウェイの著書『老人と海』、中学生の頃に買った文庫本をこれまで幾度も幾度も読んだ。

キューバの老漁師サンチャゴと針にかかった巨大なカジキとの孤独な洋上での死闘を描いた不朽の名作小説だ。

3日間にも渡る死闘の末、老人はカジキを仕留めることに成功する。しかし巨大なカジキの体を船に上げることは出来ず、縄で船に縛り付けて港まで曳航しようとする。しかしそこで幾匹もの鮫たちに襲われてしまう。

カジキとの闘いにはかろうじて勝てた老人も、次々と現れる鮫たちには為すすべがなく、せつかく仕留めたカジキの体はどんどん削り取られて行くという絶望的な展開に陥る。

しかしそんな状況でも老人は決して屈しない。

”けれど、人間は負けるように造られてはいない。人間は打ち砕かれることはあつても負けることはないのだ(But a man is not made for d

efeat. A man can be destroyed but not

defeated)”

強い意思を感じさせる言葉だ。

……きつと、私も

◇ ◇ ◇

まずは、現状を確認する。

肩と腕が熱い。どこか出血しているかもしれない。打撲を負っていることは確実、骨折の可能性もある。

幸運だったのは、仮筋交いのおかげで壁パネルの底辺が床に引っかかっており、地面と壁パネルの間に若干のスペースが生まれていた事だった。スペースがあることに気がついた私は身をよじり、壁パネルの下から這い出した。

◇ ◇ ◇

倒れている壁パネルを振り返り、改めて自分の身に起こったことを再認識すると衝撃的だった。

建設中の事故。それも誰もいない山中でたった一人作業中の事故である。一歩間違えば取り返しの付かない事態となっていたかもしれない。

一人での壁起こしが危険であることはあらかじめ分かっていたし、危険軽減策もとっていた。しかし、咄嗟の出来事にうまく対処することが出来なかった。

特に壁パネルの外側を回ろうとしたのは致命的だった。なぜこの様な初歩的な判断ミスをしてしまったのか。ここにきて自分の弱さが露呈してしまったのだと思うとうししようもなく情けなく感じる……。

けれど、

けれど、やめない。

もう一度壁パネルを立てる。

”私は決して小家づくりをやめない”

〈続く〉

## 第32話 開拓22日目 壁起こし③

◇ ◇ ◇

ゆっくりと手掌を開き、閉じる。大丈夫だ、痛い動く。

次に肩を上下させ、腕を何度か屈伸する。大丈夫、力は入らないが動く。

”大丈夫、まだやれる。もう一度、壁パネルを立てる”

失敗は、不思議と私の意思を強くした。

◇ ◇ ◇

骨折は負っていない様だった。安静時の疼痛は徐々に治っていった。出血も無かった。壁パネルの下敷きになった時にぶつかった部分はあとで青痣になることだろうが、作業を続けることに支障はない。

次に、倒れた壁パネルの方を確認すると目に見える破損は無かった。壁パネルと地面の間に私の身体が挟まることで衝撃が緩和されたのかもしれない。

唯一の固定点だった仮筋交いのコーススレッドは壁パネルを緩く留めていた側がほぼ抜けて酷く曲がっていた。このコーススレッドは75mm長の太いネジだが、さすがに60kg近くある壁パネルの重量には敵わなかった様だ。

◇ ◇ ◇  
 不思議と次に行うべきこと、”一人で行う壁起こしの解”は分かった。思考がクリア  
 になっているのを感じた。

最初の壁パネルは合板を外して軽量化し、壁枠だけの状態にして立てる。壁枠だけの  
 状態であれば、風が抜けていくので強風に煽られることはない。そして壁枠同士、壁枠  
 と床・土台をがっちりコーススレッドで固定してから合板を貼る。

一つ一つ、順番に行っていけば問題なく出来るはずだ。

◇ ◇ ◇  
 壁パネルの分解から作業を再開した。まず角材をここに用いて、底辺だけ床に乗って  
 いる壁パネルをひっくり返し、合板が貼ってある側を表にする。

次にインパクトドライバを逆回転させて、合板を留めているコーススレッドを外し  
 ていく。外す作業は留める作業の何倍も早くできる。

合板を外した後の壁枠を床の上に引きずり上げ、もう一度、壁起こしにチャレンジす  
 る。壁枠だけの状態でも決して軽くはないが、制御しきれない重さというわけではなく  
 なっていた。

◇ ◇ ◇  
 壁枠を立て、素早くかつ慎重に左右の仮筋交いを複数のコーススレッドで固定する。

次に、壁枠の位置を土台のストッパーに合わせて微調整し、コーススレッドを何本も打ち込んでいく。一本打ち込むごとに壁枠と床が“ギョツ”と締まり、密着するのが分かった。

同じ様に、合板を外した角に相当する2枚目の壁枠を立ち上げ、壁枠同士と壁枠・床・土台をガチガチに固定していった。

◇ ◇ ◇

壁枠を立てて安定させて仕舞えば、あとは順に合板を貼っていくだけの作業である。時間はかかるが、順番に行っていけばそれほど危険な作業ではない。ただ切断していないそのままのサイズの合板は1枚あたり10kg以上の重量があるので、そのまま壁枠に押し当てて貼り付けるのは難しかった。

そのため端材を用いて合板を下から支える用のストッパーを作成して土台に固定し、合板の重量を下から支えながら、再度合板を貼り付けて行った。

合板を貼らずに壁枠を立てることで壁枠が歪んでしまうことを心配していたが、既に開いているビス穴を合わせながら作業することで、時間は掛かったが壁パネルを歪めることなく元の形に戻すことが出来た。

◇ ◇ ◇

結局この日は、下部の壁パネルのうち、三辺を立ち上げて作業を終了とした。できれ



ば最後の一辺も立ち上げて四辺が安定して組み合う形にしたかったが、壁パネルのサイズをそれぞれ隙間が出来ない様、余裕なく設計していたため、壁を起こす前の段階で最後のパネルがスツポリとハマらないこと確認したからである。

明日はこれらを微調整しつつ、引き続き壁起こしを行っていく。

◇ ◇ ◇

夕暮れ時、

少し遠くから建築エリア全体をもう一度見た。

建設途中の小屋は、まだ小屋とは呼べない不恰好な形である。しかし1週間後、ここに立派な小屋が立っている風景がはつきりと想像できた。

”私は、きっと小屋を作ることが出来る”

それを証明する。

必ず証明出来る。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事	完了
資材の購入（床材・壁材）	完了
土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	完了
壁パネルの作成	完了
壁起こし	進行中

## 第33話 開拓23日目 壁起こし 上部壁パネル①

◇ ◇ ◇

「開拓23日目」

朝はまだ陽が昇る前に起き出し、自家発電機を回して電動工具類のバッテリーを充電し始めた。

今日の作業も壁パネルの接合にインパクトドライバを多用するので、そのバッテリーが切れない様に予備バッテリーと合わせて満タンにしておく。

昨日打撲を負った腕と肩の患部は、腫れて熱を持っていた。

セオリー通りであれば、氷や保冷剤を用いて患部を物理的に冷却するのが良いのだろうが、この山中にそれはない。

買いに行く手間がもつたいやと考えたので、定期的に濡れタオルで拭いてその気化熱で患部を冷やすことにした。またたとえば氷があっても作業中に患部に当て続けるということは無理なので仕方がない。

◇ ◇ ◇

「下部壁パネルの立ち上げ」

今日は最後の下部壁パネルを立ち上げることから始める。

最後の下部壁パネルは、窓用の開口部がある短辺の壁パネルで、重量は重い。また他の壁パネルと隙間なく埋まる様に設計しており、立ち上げるときに左右が接触するため、左右の壁パネルを押し上げる様に立てなければならなかった。

そのため、例のごとく、合板を取り外して軽量化し、壁枠だけ先に立てることにした。昨日の作業から様々なことを学んでおり、作業方法にも幾つかの工夫を加えたが、その一つが壁枠にあらかじめコーススレッドを半分埋まるぐらいまで打ち込んでおくというものであった。

以前は下穴だけを開けておいたが、いつそのことあらかじめ打ち込んでしまうことになったのだ。このことよって、壁パネルを立てたから仮固定できるまでの作業時間をほんの少しだが短縮することができた。ほんの少しのことだが、この少しの積み重ねが作業を安全に行うために重要になるのだと感じた。

◇ ◇ ◇

最後の壁枠を立ち上げ、素早く片方の壁枠と三本ほどのコーススレッドで仮接合した後、もう片方の側をプラスチックハンマーでガシガシ叩いて位置を合わせていく。そして位置を合わせた後に壁枠と床・土台をコーススレッドでガッチリと固定していく。

片方の固定が終わり、壁枠が倒れる危険性が無くなってから仮固定のコーススレッド

を取り外し、同じ様に位置を微調整してからもう一度、次は完全固定していく。

一つ一つ確認していく様な、手間も時間も掛かる方法だが、順番に作業して行けば少しずつ着々と作業を進めていくことができるのだ。

最後の下部壁パネルの外側に合板を再貼り付けして、下部パネルの立ち上げは完了した。

◇ ◇ ◇  
 四方の面と床・土台がガツチリと接合された壁パネルは、押しても引いても全く動揺しない頑丈さを誇った。蓋の空いた木箱やダンボール箱を想像すると分かりやすいかもしれない。箱という形状はとても安定性が高いのだ。

下部パネル立ち上げ後の小屋に入ると広さは六畳ほどで、普段住んでいる大阪の自宅アパートと変わらないはずだが、それよりも断然広く感じた。

まだ内装も家具も何も無い状態だからかも知れないが、この広い空間を今後どう活用していこうかと考えるとワクワクする。木製の本棚や工具棚、薪ストーブはぜひ設置したいところだ。

◇ その様なことを思いつつも、引き続き次の上部パネルの設置作業に取り掛かった。

◇ ◇ ◇ 「上部壁パネルの設置」

上部壁パネルは下部パネルより小さく軽い設計としている。これは施工の難易度を下げるために天井の高さをやや低めに設計しておいたがためであり、代わりにロフトのスペースがやや狭くなってしまうがそこは妥協することにした。

さらに上部壁パネルも壁枠に合板を貼る構成となっているが、合板の一部は下部パネルと共有する設計とすることでさらに軽量化を図り、上部パネルを下部パネルの上に重ねて置く際の難易度を下げている。

とは言っても、やはりそれなりに重量はあるので、上部パネルを両手で持ちながら脚立に昇るのは至難の技であった。

そこで今回はまず、ロフトに使うロフト根太の木材を下部壁パネルの上に渡して仮設のロフトを作り、一度その仮設ロフトの上に壁パネルを持ち上げてから壁パネル接合の作業することにした。

< i 3 6 3 8 3 8 — 2 8 1 2 1 >

◇ ◇ ◇

「ロフトの仮設置」

今回作る小屋はロフト付き六畳一間の設計としている。

この設計は、書籍やwebサイトなどで多くの先人たちの設計を参考にし真似たものである。

建築物を作るときに床面積が10㎡以上となる場合は建築確認申請が必要となるが、六畳というサイズはそれよりギリギリ小さい9.9㎡の床面積となるため煩雑な手続きを回避できるのである。

またロフトを設けることで空間を最大限利用することができるので、セルフビルド小家作りにおいてロフト付き六畳とする設計はマストと言っても過言ではないだろう。またロフトは上部パネルを立てる際の足場としても使える。

しかもロフトの作成には追加の木材や手間もそれほど掛からないのだ。

……と、軽く考えていたが現実は違った。

〈続く〉

## 第34話 開拓23日目 壁起こし 上部壁パネル②

簡単に設置できると考えていたロフトだったが、現実は違った。

合計八本準備しておいたロフト根太を下部パネルの上辺に上げる作業はかなり大変だった、ロフト根太は一本一本がそれなりに重量があり、それを自分の身長より高い位置まで持ち上げないといけないのである。

ロフト根太を設置する作業は、まずロフト根太の片端を下部パネルの上に引っ掛ける様に乘せた後、それを落とさない様に逆端を徐々に持ち上げ、逆側の下部パネルの上に乗せなければならぬのであったが、脚立に乗つてもバンザイをする様な形での作業を強いられるため、肩と腕を負傷している状態では非常に辛かった。

それを八本分も行わなければならないのである。

痛みと相談しつつ、一本ずつ毎回休憩を挟みながら、ロフト根太を持ち上げていった。

◇ ◇ ◇

ロフト根太を持ち上げた後はコーススレッドを後で取り外ししやすい様に斜めに打ち込むことで下部パネルと接合し、仮設の足場とした。



最終的な形としては、

上：ロフト根太

中：上部パネルの下辺

下：下部パネルの上辺

という順序での重なりとなるためこの仮設のロフト根太は後で取り外さなければならぬが、一旦はこの仮設ロフトを使って上部パネルを上を持ち上げて設置していく。

◇ ◇ ◇

まず壁パネルを仮設ロフトに立てかけてから、自分は脚立を使って先に仮設ロフトに上がる。そして壁パネルを引き上げる。

仮設ロフトは足が落ちない様に間隔を狭めて設置しておいたがおよそ180cmの高さがあるので、下を見下ろすとそれなりに恐怖を感じた。

この上で立ち上がるのはさすがに怖すぎるので、出来るだけ腰をかがめて作業することにした。

まず仮設ロフト根太に干渉しない上部壁パネルから接合していく。位置を合わせて、仮止めしてから順に完全固定していくという作業順序は下部パネルの時と変わらない。

そして仮設ロフト根太に干渉しない上部パネルの接合が終わった後に、ロフト根太に干渉する部分の壁パネルを持ち上げて、ロフト根太を挟み込む形でその上に置いて、他

のパネルと仮接合する。

現状の重なりとしては、

上：上部パネルの下辺

中：ロフト根太

下：下部パネルの上辺

という風になっているので、これから一本ずつロフト根太を取り外して上部パネルの下辺と重なり順序を変えていくという作業をしなければならないのだ。

◇ ◇ ◇

斜めに留めてあるコーススレッドを外し、一本ずつロフト根太を抜いて重なり順序を入れ替えていく。

上部パネルの重量は複数のロフト根太に分散されているとはいえ、それぞれのロフト根太にそれなりにのし掛かっているため、簡単に引き抜くことはできない。なのでプラスチックハンマーをでガシガシ叩いて徐々に位置をずらして取り外していく。

取り外したロフト根太は壁パネルの下辺の上に乗せて、あらかじめ墨線で位置を決めている場所に固定していく。この時、根太が斜めになっているのでぴったり位置を合わせることはできないため、後でもう一度抜いて再固定する。

仮固定の工程を挟む事によってネジ穴が余分に開いてしまうが、この際もうそのこと

は気にしないことにした。安全が何より重要なのである。見た目を気にしてはいけ  
ない。

その後、時間をかけて一本一本ロフト根太と壁パネルの順序を入れ替えていった。

◇ ◇ ◇

入れ替え作業が終わり、上部パネルとロフト根太を完全に固定することができたのは  
16時ぐらいだった。

まだ設置していない上部パネルが2枚残っているのと、外側に合板を貼っていない上  
部パネルが複数枚まだあった。

現実的に考えて当初考えていた順番では今日中に全ての壁パネルを仕上げることは  
難しいと考え、これからの作業順序を頭の中でもう一度再構成する。

物を持ち上げたり、位置を合わせたりといった作業は陽のあるうちに行わなければ危  
険だが、仮固定が済んだ後のビス留め作業は陽が暮れた後でもヘッドライトの明かりが  
あればできるのである。

そう考えた結果、残りの壁パネルの設置を優先して行い、合板の貼り付けや追加のビ  
ス留めは後回しにすることにした。

◇ ◇ ◇

淡々と、しかし着々と作業を進めて行き、あたりがもう暗くなった頃に最後のビス留

めが終わった。

無事壁・パネルを全て立て立て終える事ができたのである。

明日からはいよいよ小家づくり最後の作業、屋根の施工に取り掛かる事が出来るだろう。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

床の施工 完了

資材の購入（屋根材） 完了

壁の施工 完了

壁・パネルの作成 完了

壁起こし 完了

屋根  
の  
施  
工

N  
E  
X  
T

## 第35話 開拓24日目 屋根の施工 垂木の設置

◇ ◇ ◇

生活に最低限必要なものを表す言葉として『衣食住』というものがあるが、そのうちで最も自作難易度が高いのは『住』だろう。

現代の日本人にとって基本的に住居は“買うもの”であり“自分で作るもの”ではないのだ。建物を立てるとするのは時間も費用も凄く掛かる。

しかしそんな中でも、敢えてそれを行おうとしている人々がいる。

それはなぜだろうかと考えると、その根底には“自分の身近にあるものをより理解したい”という欲求があるのではないだろうか。

この“自分の身近にあるものをより理解したい”という欲求はベクトルは違えど誰しも生まれ持っているものではないかと思う。

例えば自分で料理を作る事によってその料理に対する理解は深まる。料理を作るためには食材の選択や調理の工程、その中で凝らされる様々な工夫などの知識が必要となるが、実際に料理をするという体験を経ることでそれらに対する理解を得ることができるのである。

そうして得た理解は、他人の作った料理を食べる側になった時に新たな視点をもたらす。以前はただ“美味しい” “不味い” としか表現できなかった料理に対する感想も、自分が持っている理解が広げれば広いほど、より深く、より多面的な視点から評価することが出来る様になるのである。

理解があるからこそ表現出来ることの快感。

この小屋づくりを終えたあと、私の世界を見る視点も変わっているだろう。以前は登山の途中に山小屋を見つけても、ただ不思議なものだと思っただけの自分だったが、これからは違う。

基礎の置き方、土台の組み方、壁パネル、そして屋根。知っているからこそ見える世界がそこにはあるはずだ。

今回の小家づくりで得た数々の理解は、これから先の人生をより味わい深いものにしてくれることだろう。

◇ ◇ ◇

「開拓24日目」

基礎の設置から始まった小屋作りの作業はいよいよ最後の主要構造部である『屋根』の施工段階まで進めることができた。

今回の小屋は極力シンプルな設計としているため、屋根は傾斜の付いた一面で構成す

る『片流れ屋根』としている。

また屋根の建築方法は壁パネルと異なり、あらかじめ枠を組んで上に乗せるのではなく、木材を1本ずつ上部壁パネルの上に持ち上げてから順番に固定し、設置していく。

◇ ◇ ◇

「垂木の加工」

屋根の骨組みには垂木《たるき》と呼ばれる木材を合計十本用いる。この垂木の上に屋根板を貼ることで屋根が完成するのである。

この垂木は加工していない状態では、壁パネルの上辺に対して斜めに辺で接する形となってしまうので、あらかじめ欠き込みを作り、面で接する様に加工する。

まず一本目の垂木に指矩《さしがね》を使って直角の墨線を引いていく。

次に実際に一度、垂木を壁パネルの上に乗せてみて、欠き込みを作る位置が正しいかどうかを念のため確認する。

◇ ◇ ◇

試しに垂木を一本、壁パネルの上に持ち上げて設置してみるが、垂木の重量はやはり重かった。

持ち上げる作業も壁パネルに立てかけた脚立に登って、片端ずつ上部壁パネルの上に乗せていくという作業では、ジリジリと疲労を強いられた。



確認の結果、墨線の位置は計算通りで合っていた様なのもう一度垂木を降ろしコンクリートブロックの作業場に持って行き、欠き込みを入れる刻みの作業に移る。

この刻みの作業はそれなりの時間が掛かった。なぜなら、今までの木材の加工では電気丸ノコを用いることで大幅な時間短縮を図っていたが、今回はそれを使わずノミとノコギリだけで作業を行ったからである。

なぜ電気丸ノコを使わなかったのかといえば、今回の欠き込みは木材に対して斜めにブレードを入れる形で、なおかつ切断しきらずに途中で引き返さなければならぬという、今までとは違う高度なレベルの技術が必要とされそうだったからである。

失敗するリスクがある方法をとるより、時間は掛かるが安全な作業の方法を選択したのだった。

一本目の垂木を仕上げた後はそれをコピーする形で同様に他の垂木の加工を行っていた。

◇ ◇ ◇  
「垂木の固定」

加工の終わった垂木を再び上部壁パネルの上に乗せて具合をみると、ぴったりとは嵌らず、若干の隙間ができてしまっていた。

これは自立している壁パネルが若干歪んでいることが原因でもあるだろう。垂木の

方は精確にサイズを測って欠き込みを入れているので、それに合わせる様にビス留めする際に締め上げて調整していく。

◇ ◇ ◇

今回、垂木の接合には垂木専用の15cmもある極太のビスを使った。

垂木を固定する方法には『ひねり金具』と呼ばれる金具を側面から固定する方法もあるが、今回使う専用ビスを上から打ち込む方法は、よりシンプルで施工の難易度も低いのである。

垂木の上から斜めに押し込む様にドリルビットで下穴を開け、インパクトドライバで専用ビスを打ち込んでいく。

この作業は脚立に登りながらさらに手を伸ばし、インパクトドライバを自分の方に引き寄せる様な不安定な姿勢での作業となるため、これまでのビス打ち作業と違って、力も入れづらく難しかった。

◇ ◇ ◇

垂木の欠き込みに時間が掛かってしまったこともあって、今日は垂木の設置までで作業終了とした。

明日は垂木同士を横から固定する転び止めころびどめを設置し、その上に屋根板の貼り付けていく作業まで行えることだろう。

天気は良かったが念のため未完成な屋根部分にブルーシートで覆いをかけ、明日の作業に備えた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台 完了

床の施工 完了

資材の購入（屋根材） 完了

壁の施工 完了

屋根の施工 進行中

垂木の加工 完了

垂木の固定 完了

転び止めの設置  
NEXT

屋根板の貼り付け

N  
E  
X  
T

## 第36話 開拓25日目 屋根の施工 屋根板①

◇ ◇ ◇  
「開拓25日目」

今回の小屋作りに残された期間はあと一週間を切った。

月末の三十一日を撤収日として考えると、本格的な小屋作り作業ができるのは今日を入れてあと六日間となる。この期間中に最低限の雨風が凌げる状態にまで小屋を仕上げなくてはならない。

日程的にはまだ余裕があるが、これからの作業では初めての高所作業となるため気を抜くことはできない。怪我を負ってそこでお終いになるということも十分あり得るのだから。

◇ ◇ ◇  
「木材の準備」

屋根板の設置に先駆けて、垂木の間に『ころびどめ転び止め』と呼ばれる補強材の木材を設置していく。この転び止めは名前の通り、垂木が横に傾いて転ぶのを防止し、また屋根板と壁パネルの隙間を埋める役割も担うため必須の木材である。

転び止めの木材は2×4材を切断加工して作るため、まずはその作業に取り掛かった。

木材をメジャーで測り、指矩で直角に墨線を引き、丸鋸ガイド定規を使って次々とカットしていく。この一連の作業にも慣れたものである。

同様に屋根板を貼る際の下地となる根太材《ねだざい》もカットしておく。

この屋根用の根太材は必ずしも必要ではない省略することも可能な部品だったが、屋根板が浮いてしまう可能性を少しでも減らすために設計図に追加しておいたものである。ビス留めする箇所は多ければ多いほどよいのだ。

◇ ◇ ◇

「転び止めの設置」

切断した木材を建設中の小屋に持っていく。

そう、壁パネルが立ち、垂木が渡された建設エリアはもはや建設エリアと呼ばず、小屋と呼んでも申し分ない状態であった。

転び止めを上部壁パネルの上に設置し、垂木の間を埋めてコーススレッドで留めていく。

ぴったしサイズに作った転び止めがうまく入り切らない部分ではプラスチックハンマーでコンコンと叩いて目的の位置にはめていく。

ロフト上から手が届く範囲はロフト上から作業を行い、手が届かない範囲は斜めに立てかけた脚立に登って手を伸ばし、ビス留めしていく。

◇ ◇ ◇

「根太材の設置」

転び止めの設置が終わったあと、次に根太材を設置していく。

しかし……、この作業がものすごく難しかった。

なぜなら脚立に最大限登っても垂木の高さには手が届かず根太材を固定することなど到底不可能だったからである。

脚立をはしご状にしても、それを立てかける場所は壁パネルしかなく、根太材を設置しようとしていた天井のちょうど中心になる位置には手が届かなかったのだ。

いっそのこと屋根に登って上から作業するべきだろうかと考えなくもなかった。

複数の垂木が既に固定済みの屋根は、上に登って作業することも可能な状態ではある。

いずれ屋根板を貼る作業をするときには屋根の上に登らないといけないということもある。

しかし、それには危険が伴うことは確実。垂木の間隔は私の身体が通り抜けて落下するに十分な隙間があるのだ……。

……。

熟考した結果、ロフト上から作業できる範囲には根太材を設置し、手が届かない範囲には設置しないことにした。

このことによつて屋根の強度は落ちるし、天井を見上げれば屋根の骨組みが不格好に見えてしまうが、今回は安全がなによりも優先にしたいと考えた次第である。

もう少し私に身長があれば良かったのにと思わなくはない。もし将来誰かがこの天井を見上げて”なぜこの様な中途半端な構造になつているのか?”と不思議に思うかもしれないが、それにはこの様な経緯《いきさつ》があつたのだ。

この様な経緯《ストーリー》を含めて私が作った小屋といえるのではないだろうか。

◇ ◇ ◇

#### 「屋根板の設置」

転び止めと根太材を設置したあと長い休憩を入れ、身体と心の準備をしてから屋根板の設置に取り掛かった。

今回使用する屋根板は壁パネルにも用いた12mm厚の構造用合板であるが、この合板は大きい上に持ちにくい。

そのため一枚あたり10kgほどある合板を、一度ロフト上に引き上げてから、垂木の間から押し上げ屋根の上に乗せていく。



一気にすべての合板を持ち上げはせず、二枚ほど垂木の上に入れてからいよいよ屋根板の設置作業に取り掛かった。

〈続く〉

## 第37話 開拓25日目 屋根の施工 屋根板②

屋根板に用いる構造用合板をとりあえず2枚ほど垂木の上に押し上げた後、いよいよそれらを固定していく。

作業はロフト上から手の届く範囲の合板から始めた。まずは屋根に登る前に最初の合板を固定し足場とするのである。最初の足場さえ固定してしまえば、後は追加の屋根板を一枚一枚位置合わせをしてビス打ちしていくだけの作業となるので大分楽になるはずだ。

◇ ◇ ◇

一枚目の屋根板はロフト上と小屋外側から脚立はしごに登って手が届く場所にはあらかじめ下から手を伸ばしてビス留めした。まだ一部の固定は済んでいないが、この状態で動かそうとしてもすでにビクともせず、この上に登っても大丈夫であろうと判断することができた。

屋根に登っての高所作業に先駆けて靴を履き替え、腰に『安全带』を装着する。

この『安全带』は分厚いナイロンベルトにフックの付いたリール式ロープが付属している高所作業用のものである。

リールに収納されているロープは自動車のシートベルトの様にゆっくりと引つ張る分には引き出すことができるが、落下時の様な衝撃が加わるとロックされて体が宙吊りとなる仕組みとなっており、高所作業を安全に行うためには必須な装備品と言えるのである。

ただしこの安全帯が実際に役に立つのはかなり危機的な状況であるため、なるべくお世話にはなりたくない、お守りの様なものだと考えていた。

◇ ◇ ◇

安全帯のフックを手近な垂木に固定し、ロフト上から壁パネルに足をかけて屋根板の上によじ登る。

屋根に上がると地表とは異なる、高い場所特有の風が吹いているのを感じた。稜線歩きで感じる様な風だった。

四つ這いで最大限の安定姿勢を取りつつ屋根上を移動する。屋根は地上からは約三メートル程の高さにあり、さらにそこに自分の身長分の高さが加わるのでとても怖く感じる。

屋根板として使っている構造用合板は一枚あたり91cm×182cmの大きさがあり、地上では十分な安心できる大きさだと感じていたが、不思議なことにはいざ屋根に乗ってみるとそれはとても小さく、心細げに感じた。

とてもじゃないが、この上に立ち上がる勇氣はない。

這いつくばりながら徐々に移動し、あらかじめ下穴を開けておいた場所に追加のビスを打ち込んでいく。

◇ ◇ ◇

さらに次の屋根板を固定していく。

一本の垂木と完全固定した後、二本目三本目と固定点を増やしていくごとに屋根板の安定性は増していった。

その後も着々と作業を続け、屋根板が貼られた面積は次第に広がっていった。

やがて、屋根に登るためのロフト部分以外の屋根板を貼り終わると、傾斜の付いた広い平面が出現した。

これぐらい広ければ大丈夫とだろうと思ひ、屋根の中央部で立ち上がってみることにした。

◇ ◇ ◇

”これほど素晴らしい光景はあるだろうか”

屋根の上から見渡すと、地表からは見えなかつたかなり遠くの送電線の鉄塔まで見えた。

屋根の上では地表とは異なる高い場所の風が吹いていることもあって、ある意味長い

登山の末、ついに山頂に辿り着いた様に感じたのだった。

そのまましばらくは茜色へと変わってゆく夕焼け空を眺め、これまでのことを振り返り思い出していた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事	完了
資材の購入（基礎・土台）	完了
資材置場（仮）の建設	完了
基礎工事	完了
資材の購入（床材・壁材）	完了
土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	完了
屋根の施工	進行中
垂木の加工	完了
垂木の固定	完了

転び止めの設置

屋根板の貼り付け

ルーフィング材の設置

完了

完了

N  
E  
X  
T

## 第38話 開拓26日目 屋根の施工 ルーフイング

◇ ◇ ◇  
「開拓26日目」

昨日までの施工で屋根板の貼り付けはほぼ終了し、あとは屋根に上がり下りするためにかけているロフト上の一枚分を塞げば完了という状態になっていた。

合板を貼った時点で屋根は最低限の防水機能を果たせる様になっていたが、むき出しの構造用合板は繰り返し雨風に曝されることで腐食や変形してしまう。

そこで今日は合板の上に防水性を持つ『ルーフィング材』を貼り付けていくことで屋根の防水機能を高めていく。

◇ ◇ ◇  
まずルーフィング材を貼る作業に先駆けて、合板同士の隙間をシリコン製のシーリング材で埋めていく。

また屋根板は使用した合板には若干の反りがあったためか、所々で僅かな段差ができていた。その段差を出来るだけ無くす様にシーリング材を乗せて行き、プラスチックのパテで形を整えていく。

◇ ◇ ◇ 「鼻隠しの取り付け」

次に『鼻隠し』と呼ばれる板を設置していく。

これは垂木の先端（鼻？）に取り付けることで、垂木に直接雨水が接しない様に覆い隠す木材のことである。

この鼻隠しは強度が必要になる部分でもなく、外から見える部分でもないので取り付けにそれほど正確さは必要としないが、屋根端での作業となるため落下の危険に注意しつつ、慎重に作業を進めていった。

◇ ◇ ◇

「軒先水切りの設置」

次に軒先に『水切り』を取り付けて行く。この水切りは薄い金属板を曲げて作られたもので、鼻隠しを覆う様に取り付けることで雨水を下に流し落とすという役割がある。

この水切りは長さを調整する必要があったため『金切ばさみ』を使用し切断加工しなければならなかったが、金属板を切るという作業は意外と簡単にすることが出来て驚いた。金属板は最初の刃を入れる際の抵抗こそ大きいものの、一度切れ目が入ると紙の様にスーと切れるのである。

水切りは設置する際に若干曲がり具合を修正する必要があったため作業時間はか



かったが、順調に作業を進め、釘で屋根板に固定して行った。

◇ ◇ ◇  
「ルーフィング材の設置」

続いて屋根防水の要である『ルーフィング材』を貼り付けていく。

このルーフィング材はフェルト状の原紙にアスファルトが染み込ませてある防水シートであるが、その重量は非常に重かった。ホームセンターで買ってきたものは一卷き21m×1m幅で23kgもあつたのだ。

このルーフィング材を屋根に上げるとなると一苦勞である。

今まで屋根に使用した資材である『構造用合板』や『水切り』は、下から押し上げる方法でなんとか屋根上に持つていくことが出来ていたが、ルーフィング材は重すぎてそのやり方では不可能だった。

しかしなんとかして持ち上げなくてはならないのでロープに結んで引つ張り上げる方法も検討したが、ポスター筒の様な形状のルーフィング材にはロープをうまく引つ掛ける部分もなくそれも難しかった。

思案した結果、ルーフィング材を一旦地上で切断加工し、複数枚に分けてから屋根に持ち上げることにした。

◇ ◇ ◇

ルーフィング材はそれなりに分厚かったが普通のカッターで切断出来た。以前自作していた丸ノコ用ガイド定規を流用し、同じ箇所を何度もなぞる様に刃を当て、切り込みを深くしながら切断してゆく。

そして切断したルーフィング材をもう一度巻き取って屋根に持ち上げ、いよいよ設置していく。

ルーフィング材は隙間から雨が侵入しない様に、屋根の傾斜の下側から順に設置し、タッカーで留めていく。このタッカーは押し当てて使うホッチキスの様なモノで、木材と何かを留めるという様な用途では非常に活躍する。

たわみが出ない様にルーフィング材を引つ張りながら次々と固定し、屋根の防水機能を完成させていった。



### 「ケラバ水切りの設置」

ルーフィング材の貼り付けが終わった後、屋根の短辺に相当する左右側面のケラバに『ケラバ水切り』を設置していく。

この部分は屋根の中でもっとも雨水が侵入しやすいため、返し返しの付いた形状の水切りを設置し、屋根に降った雨水が軒下に流れて行く様に誘導するのである。

ルーフィング材を上から抑えつける様にケラバ水切りを設置し、釘を打ち込むことで

固定を進めていった。

◇ ◇ ◇

ケバラ水切りを設置し、さらにシーリング材で隙間を埋めたところで今日の作業は終了とすることにした。

今日の作業で屋根の防水機能は完成し、これからは雨が降っても耐えられる様になった。

明日は小屋の外壁面である壁パネルに透湿防水シートを貼って、小屋全体の防水機能完成させる。

このペースであれば窓やドアの設置や、屋根・外壁の仕上げ材の貼り付けも今回の小屋づくり期間中に出来そうだと考えていた。

◇ ◇ ◇

——経過——

進入路の工事 完了

資材の購入（基礎・土台） 完了

資材置場（仮）の建設 完了

基礎工事 完了

資材の購入（床材・壁材） 完了

土台	完了
床の施工	完了
資材の購入（屋根材）	完了
壁の施工	完了
透湿防水シート	NEXT
屋根の施工	進行中
垂木の加工	完了
垂木の固定	完了
転び止めの設置	完了
屋根板の貼り付け	完了
ルーフィング材の設置	完了
仕上げ材の設置	NEXT

## 第39話 開拓27日目 壁の透湿防水シート貼り付け、買い出し

◇ ◇ ◇

屋根板の貼り付けが完了したことで小屋の内部は建物として機能する様になった。

まだドアと窓を設置しておらず、壁パネルにその部分の開口部が空いているため屋内は密閉された空間ではないものの『雨風を凌げる』という点では最低限、人の居住に耐えられる空間と言えた。

悩ましかつたのは約1ヶ月過ぎたテントから、いつ小屋に引越すべきかという問題だった。

これはあくまでも気分的な問題だったが、小屋はまだ作りかけであり今の状態で引越すのは料理に例えるなら”つまみ食い”をする様なものという気もした。

完成はもう目前までできており、これまでの道程を考えればあと数日待つことも誤差の範囲内である。

◇ そう考え、小屋に居を移すのもうしばらく待つことにした。

◇ ◇ ◇

## 「開拓27日目」

朝から構造用合板がむき出しになっている壁パネルの表面に『透湿防水シート』を貼っていく作業を行うことにした。

この透湿防水シートはその名の通り『湿気は通すが水は通さない』というレインウェアやテントによく用いられてるゴアテックスの様な素材である。

透湿防水シートはロール状に巻いてあるものを引き出しながらタツカーを用いて壁パネルに留めていくが、壁パネルの全面に貼っていく必要があるため中々作業が難しい。途中でシートがたわんでしまうのだ。

もし二人以上の人員で作業するのであれば、お互いに端と端を引つ張りながら止めることでたわませることなく水平にシートを留めることができるのかもしれないが、一人で行う場合はそれができない。

しかしこの様な作業を一人で行うための方法はこれまでの作業で学んできている。

一旦、片方の端をタツカーで仮止めした後、もう片方に回ってそこを完全に固定し、そのあとで仮止めした箇所を外して、再度タツカーで止めれば良いのだ。

時間が掛かる方法ではあるが、失敗が少なく、やり直しなくて済むので結局のところこのやり方が一番効率が良いのだ。

脚立を使いながら3時間ほどかけて透湿防水シート貼りの作業を完了させた。

◇ ◇ ◇

「ホームセンターでの資材買い出し」

朝の作業を終えて、久しぶりにホームセンターに買い出ししに行くことにした。

今回買うのはドアと窓を作るための資材と屋根と壁の表面に貼るための仕上げ材である。これらは当初の予定では時間が余れば追加で施工しようと考えていた部分であり、あらかじめ資材は買っていないかった。

当初の予定ではドアと窓は最終日にベニア板で塞いで撤収しようと考えていたぐらいであったが、現状では時間に余裕があったため作成することにしたのである。

ドアや窓は既製品を使用するのではなく自作しようと考えたため、木材や蝶番、ガラスの代わりに使用するポリカーボネートの板などを買った。

壁パネルの外に貼る仕上げ材は小屋を山小屋らしい見た目とするため、杉の野地板を鎧貼りすることにした。この野地板は加工や塗装が必要となるため今回の小屋作り期間中に全てを完成させることはできないかもしれないが、完成できなかった部分の資材は小屋の中に保管しておき、いずれ週末DIYで完成させれば良いと考えていた。

屋根には『アスファルトシングル』と呼ばれる仕上げ材を使うことにした。これはルーフィング材の上からセメントで貼り付けて釘を打ち込み固定するだけでよく、軽量であるので施工も簡単なシート状の屋根材である。

◇ ◇ ◇  
 当初はそれほどの資材をかう予定はなかったが、野地板を一括買いすることにしてしまったため、結局いつもの様に軽トラックレンタルサービスを利用し、購入した資材を山林の土地へと運んだ。

資材の運搬という仕事を終えてホームセンターの駐車場に戻ってきた後、いつもの様に食品の買い物と温泉に行き、英気を養う。

『余裕がある』というものは非常に良いものだと思改めて感じた。これまでの作業の中の失敗のほとんどは、余裕がないことから生じる『焦り』から生じたものだった。

あと数日の小屋づくりはどこまで仕上げられるか分からないが、もう焦る必要はないし、ただ順番に、丁寧に作業進めて行き、出来るところまで行ければ良いのだ。

◇ ◇ ◇  
 ある意味で仙人の様に達観した気分を感じていた。

◇ ◇ ◇  
 土地に帰ってきたあと、買ってきた資材やこれまでの作業で中途半端に余っていた資材をまとめ、この日の作業を終わらせることにした。

◇ ◇ ◇  
 窓やドアは一旦設計図を作ったあとで作成に取り掛かる。屋根や壁の外装についても、もう一度予習したあとと明日以降に作業を始めることにした。



——経過——

進入路の工事

完了

資材の購入（基礎・土台）

完了

資材置場（仮）の建設

完了

基礎工事

完了

資材の購入（床材・壁材）

完了

土台

完了

床の施工

完了

資材の購入（屋根材）

完了

壁の施工

完了

透湿防水シート

完了

野地板の加工

NEXT

屋根の施工

進行中

垂木の加工

完了

垂木の固定

完了

転び止めの設置

完了

屋根板の貼り付け

完了

ルーフィング材の設置  
仕上げ材の設置

完了  
NEXT

## 第40話 開拓28日目 ドアと窓の施工

◇ ◇ ◇  
「開拓28日目」

この日は朝から天気も良く、引き続きの作業日和となりそうだった。

今日は昨日ホームセンターで購入してきた資材を使って窓とドアを作成し、小屋に取り付けていく。

この小屋は正面に一つのドアと、短辺の下部壁パネルとロフトに面した上部壁パネルの二つの部分に窓を設置する様に設計してしているため、それらのサイズに合わせた自作のドアと窓を作成し、小屋に設置していく。

◇ ◇ ◇  

ドアと窓を設計する上で重要となるのは『気密性』である。

ドアや窓は閉じた時に上下左右の隙間が埋まり、外の風がまったく中に入ってこない様にすることが望ましいが、ドアも窓も稼働部品なので塩梅が難しいのだ。

理想は軽い力で「スツー」と開き、また「ピタッ」と閉じるものであるが、それには高い工作精度が要求されそうなことは容易に想定できた。ギリギリに作れば少しの歪

みでもそれが開閉時の抵抗につながってしまうのだ。

そこで今回はあえて余裕を持たせた作りになるので、多少の隙間は許容することとした。後で隙間が気になる場合は、両面テープにスポンジが付いた隙間テープを貼ればよいだろうと考えたのだった。

◇ ◇ ◇

「ドアの製作」

まずドアの作成から着手する。

今回、ドアは市販品のレバーハンドル式ドアノブを用いた一般的な外開きのタイプとすることにした。このドアノブには鍵も付いているので、ドア枠にその受け金具を取り付けることで防犯性を高めることもできるのである。

ドアは『フラッシュ構造』と呼ばれる、木材で作った枠の表面に合板を貼る方法を採用した。フラッシュ構造では内部を中空にすることができるので材料も少なく済み、重量を軽量化することもできるのである。

◇ ◇ ◇

まず使用する木材を加工していく。

角材や合板の加工作業はもう何時もの作業と言ってもよいほど慣れている。作業が途中で途切れない様にあらかじめまとめて墨付けを行い、順にテキパキと丸ノコで切断

していく。

出来上がったパーツを合板の上に置いて仮組みし、問題がないことを確認してからこれまでの施工で余っていた屋内用木材保護塗料を塗って乾燥させておく。

木材を乾燥させている間に、ドアノブの受け材となる部分にドアノブを取り付けるための穴あけ加工を行う。

ドアノブには「ドアノブ自体を通す穴」とラッチと呼ばれる「ドアノブの上下に連動して出入りする部品を通す穴」と「錠の部品を通す穴」という、位置も大きさも異なる三つの穴を開ける必要があるため、電動ドリルにそれぞれの穴の大きさに合わせたドリルビットを装着し、穴あけ作業を行っていく。

またラッチが当たる部分の枠材には「ラッチ受け金具」がちょうど埋め込まれる様に小さな溝を作る必要があるため、ノミと金づちを用いて刻みを入れていく。

◇ ◇ ◇  
木材の加工が終わった後、組み上げを行う。

一般的な方法の場合、ドアを美しく仕上げるために表面の見える箇所にはなるべくビスは使用せず、木工用ボンドなどの接着剤と用いて合板とドア枠材を接合するが、今回は時間もあまり無いため普通に木ネジを多用してビス留めすることとした。

今回のドアでは採光窓も用いておらず、全面が合板貼りで構成されているので非常に

シンプルな見た目となった。これをより山小屋らしい見た目にする装飾や塗装は後日行いたいところである。

◇ ◇ ◇  
「ドアの設置」

壁。パネルの開口部にドア枠を設置したと、ドア本体を設置する。

ドア本体はその上下がそれぞれドア枠からわずか5mmほど隙間が開く様に設計してあるので、その5mm分の高さとなる様に下にダンボールを敷いてかさ上げた状態で蝶番でドア枠に本体を固定する。

この作業は、ドアを水平に固定することがなかなか難しく、何度か固定をやり直しをすることとなった。ドアはほんの少しでも傾いていると気になってしまうのである。

ドアの取り付けが終わった後、何度も開閉して具合を確かめて大丈夫そうであることを確認した。

ドアがあるというのはとても良いことだと改めて実感した。ドアという部品は住居を住居たらしめている重要な要素なのである。

最後にドア枠にドアの稼働を制御するストッパーとしての役割を持つ『戸当たり』という細木を取り付けて、ドアの施工を完成させた。



## 「窓の製作」

次に窓の製作に移る。

小屋には短辺の下部壁パネルに大きな窓と、ロフト部分に小さな窓を取り付ける様に開口部を設けているため、この二つを製作し設置していく。

小屋建築に用いられる窓はドアと異なり様々な形式が存在するため、どれを選択するか悩ましかったが、今回は強度及び製作の単純さを考慮して『跳ね上げ式窓』とすることにした。

この跳ね上げ式窓は窓枠上辺に蝶番で窓本体を留めるだけという単純な形状のものであり、『突っかい棒』を使うことでその解放状態を維持することができる。錠も窓枠の内側に太い貫抜を取り付けるだけで十分なのでとてもシンプルに作成することができるのである。

また今回、窓には加工が難しいガラスではなく、『ポリカ中空ボード』を使うことにした。これはプラスチックの一種であるポリカーボネートで作られているため加工が簡便で、厚みはあるものの内部が中空となっているため軽量で断熱性も高く、窓ガラスの代用品として理想的な素材と言えるものであった。

## ◇ ◇ ◇

## 「窓の設置」

木材を加工し、窓枠と窓本体を作っていく。

そしてカッターナイフでポリカ中空ボードに切れ目を入れてから折り曲げて切断し、内部に削りカスなどが入らない様にテープで切断面を塞ぐ。

次にそれを同じサイズで作った窓本体の木枠で前後からサンドイッチする様にはさんでいく。

本来であれば木枠にわずかに溝を入れて、ガラスをはめ込む様にポリカ中空ボードを設置するべきかもしれないが、今回は直接木枠で挟み込んでしまうことでボードと木材が接する面積を多くし、外からの強い風圧にも耐えられるようにした。

そして完成した窓枠と窓本体を壁パネルの開口部に設置していった。

◇ ◇ ◇

朝から始めた作業は夕方頃にやっと終わることができた。ドアと窓の施工にはかなりの時間が掛かってしまったが、両方の設置を完了させたところで今日の作業は終了とすることにした。

ドアと窓を備えた小屋は、多少の隙間は残るものの内部が密閉された空間が確保され、より居住空間として完成に近づいたと言える。

◇ ◇ ◇  
小屋づくりの作業も残すところあと少しだ。



——経過——

進入路の工事

完了

資材の購入（基礎・土台）

完了

資材置場（仮）の建設

完了

基礎工事

完了

資材の購入（床材・壁材）

完了

土台

完了

床の施工

完了

資材の購入（屋根材）

完了

壁の施工

完了

透湿防水シート

完了

野地板の加工

NEXT

屋根の施工

進行中

垂木の加工

完了

垂木の固定

完了

転び止めの設置

完了

屋根板の貼り付け

完了

ルーフィング材の設置

完了

仕上げ材の設置

N E X T

ドア・窓の施工

完了